

2022年度（令和4年度）

事業計画書



目 次

	ページ
1. 法 人	5
2. 短 期 大 学	9
3. 専 攻 科	17
4. キリスト教活動	20
5. 研 究 活 動	22
6. 委 員 会 活 動	38
7. 広 報 活 動	58
8. 施設・設備・経費	61
9. 財務計算書 (5 年推移)	64

和泉短期大学の沿革

1956年5月 (昭和31年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が、米国財団クリスチャン・チルドレンズ・ファンドの援助のもとに バット博士記念養成所 を設立、収容施設従事者を対象とする諸々の現任訓練講習会を開催、従事者の技能研鑽を授け、以って我が国養護事業内容充実に力を尽くした。
1960年5月 (昭和35年)	社会福祉法人基督教児童福祉会が我が国はじめての収容施設保母の養成を主眼とした 玉川保母専門学院 を東京都世田谷区に開設、同時に 児童福祉研究所 を開設して現任訓練及び研究事業を強化した。
1964年6月 (昭和39年)	玉川保母専門学院並びに児童福祉研究所を母体とした和泉短期大学開設並びに学校法人クラーク学園の設立準備に着手した。
1965年4月 (昭和40年)	学校法人クラーク学園 設立認可、 眞鍋頼一氏 が理事長に就任した。同じく 和泉短期大学 児童福祉科(定員40名)設立が認可され、 中島武夫氏 が学長に就任した。
1966年3月 (昭和41年)	幼稚園教諭二級普通免許状 取得のための正規の課程として認定された。
1971年11月 (昭和46年)	眞鍋頼一理事長逝去の為、理事 郷司浩平氏 が理事長に就任した。
1976年4月 (昭和51年)	中島武夫学長退任、後任として常務理事 野口敏雄氏 が学長に就任した。
4月	学生入学 定員250名 に変更認可された。
8月	全学神奈川県相模原市の 新校舎 に移転した。
1978年2月 (昭和53年)	郷司浩平理事長が退任、後任として理事 中島武夫氏 が理事長に就任した。
1981年2月 (昭和56年)	中島武夫理事長逝去の為、理事 伊藤忠利氏 が理事長に就任した。
7月	野口敏雄学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長代行として就任した。
1982年4月 (昭和57年)	北原歌子学長代行退任、後任として教授 花村春樹氏 が学長に就任した。
1985年4月 (昭和60年)	法人内に 和泉老人福祉専門学校 を開校した。(定員80名)
1986年6月 (昭和61年)	伊藤忠利理事長が退任、後任として理事 阪田勝三氏 が理事長に就任した。
1988年3月 (昭和63年)	和泉老人福祉専門学校が、厚生省より 介護福祉士養成校 としての指定認可を受けた。(定員100名)
4月	短大児童福祉科で 社会福祉士国家試験受験資格 の指定科目の開設を届出た。
1990年4月 (平成2年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認可された。
1991年3月 (平成3年)	社会福祉主事任用資格 の科目の届出を行い、同資格を取得可能とした。
1992年2月 (平成4年)	保母養成課程 が改訂され、学則変更を行って新しい保母養成課程として認定された。
4月	和泉老人福祉専門学校の名称変更を行い、 和泉福祉専門学校 とした。
9月	花村春樹学長退任、後任として教授 北原歌子氏 が学長に就任した。
1995年4月 (平成7年)	北原歌子学長退任、後任として 阪田勝三理事長 が学長に就任した。

1996年4月 (平成8年)	阪田勝三理事長退任、後任として理事 平良氏 が理事長に就任した。 阪田勝三学長退任、後任として 讃岐和家氏 が学長に就任した。
1999年4月 (平成11年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2000年4月 (平成12年)	児童福祉科の名称変更を行い、 児童福祉学科 とした。
2001年4月 (平成13年)	男女共学制度 を導入した。
2002年4月 (平成14年)	讃岐和家学長退任、後任として教授 伊藤忠彦氏 が学長に就任した。
2006年5月 (平成18年)	学校法人クラーク学園 創立 50 周年記念式典 が行われた。
2008年3月 (平成20年)	(財)短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
6月	平良理事長 退任、後任として 伊藤忠彦学長 が理事長を兼任した。 (深町正信氏 が理事長に就任するまでの間)
10月	伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 深町正信氏 が理事長に就任した。
2010年3月 (平成22年)	和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を廃止した。
4月	和泉短期大学に 専攻科介護福祉専攻 を開設した。(定員 20 名)
2013年4月 (平成25年)	学校法人クラーク学園の名称変更を行い、 学校法人和泉短期大学 とした。
2014年4月 (平成26年)	伊藤忠彦学長退任、後任として教授 佐藤守男氏 が学長に就任した。
2015年3月 (平成27年)	(財)短期大学基準協会の2回目の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2016年5月 (平成28年)	法人創立 60 周年記念式典、祝賀会、記念講演を開催した。
2017年10月 (平成29年)	児童福祉研究室設置
2019年1月 (平成31年)	教育職員免許法改正に伴い、 再課程認定 の届出を行い、幼稚園教諭二種免許状取得の課程として認定された。
2020年6月 (令和2年)	深町正信理事長 退任、後任として理事 伊藤忠彦氏 が理事長に就任した。
2022年3月 (令和4年)	(一財)大学・短期大学基準協会の3回目の「認証評価」において『適格認定』の評価を受けた。
2022年4月 (令和4年)	学生入学定員 200 名 に変更認可された。 伊藤忠彦理事長 退任、後任として理事 須田拓氏 が理事長に就任した。

設置学校 学校法人和泉短期大学
 理事長 須田 拓 (すだ たく)
 所在地：神奈川県相模原市中央区青葉 2-2-1
 学 長 佐藤 守男 (さとう もりお)

設置学科名	入学定員	収容定員
児童福祉学科 (2年制)	200名	450名
専攻科介護福祉専攻 (1年制)	20名	20名

建学の精神

キリスト教信仰に基づく教育と人格形成

教育理念

2016年2月24日教授会改訂

本学は、建学の精神であるキリスト教信仰に基づき、
スクールモットーである愛と奉仕を実践する人、
地域社会のあらゆる局面で積極的な貢献を成し得る人、
保育・福祉専門職として謙虚に学び続ける意志をもつ人への実力養成教育を授ける。

スクールモットー

愛と奉仕

「あなたがたの光を人々の前で輝かしなさい。」(聖書：マタイによる福音書第5章16節)

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

2020年3月9日教授会改訂

本学の建学の精神(キリスト教信仰に基づく教育と人格形成)、スクールモットー(愛と奉仕)に基づくカリキュラムを履修して、卒業に必要な所定以上の単位を修得し、下記の要件を満たす学生に対し、短期大学士(児童福祉学)の学位を授与します。

1. 保育・福祉に関する基礎的な学修を通して、基礎学力、幅広い教養、礼節を身につけ、多世代にわたる人々の人権を尊重できる。
2. 保育・福祉に関する専門的な学修を通じて、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての原理を理解している。
3. 保育・福祉の専門的な価値観、知識・技能を修得し、自ら考える力、自ら行動する力、コミュニケーション能力を身につけている。
4. 保育・福祉の専門職として多角的な視点を持ち、共生社会の実現に向けて主体的かつ自律的に学び続け、愛と奉仕の精神を實踐できる。

教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

本学は、Ⅰ教養、Ⅱ原理、Ⅲ知識・技能、Ⅳ実践の4科目群を配置しています。

Ⅰ教養は、キリスト教の精神を踏まえて、人々の権利を護り共に生きる人としての価値観を養うための科目

Ⅱ原理は、多様な人々を支える社会の理念・仕組みについての学びを通して、愛と奉仕を実践する人間観を養うことができる科目

Ⅲ知識・技能は、子どもと子どもを取り巻く環境を知り、様々な支援の内容と方法に関する専門的な知識と技能を身につけることができる科目

Ⅳ実践は、身につけた価値観・知識・技能を現場に即して実践し、共に成長する体験を積み重ねて学び直し、キャリア形成の基礎を培うことができる科目

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

2020年3月9日教授会改訂

【和泉短期大学が求める学生像】

和泉短期大学は、保育・福祉専門職として必要な価値観、知識・技能を修得し、建学の精神にもとづく愛と奉仕をもって、すべての人々が共に生きる社会の実現に貢献したいと考える人を求めています。

【入学希望者に期待される学習経験：児童福祉学科】

1. 高校内での保育・福祉に関する学び・経験（総合的な学習の時間、家庭科や社会科等における保育・福祉に関連する学び）の機会を得ること。
2. 保育・福祉現場等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得すること。

【入学希望者に期待される学習経験：専攻科介護福祉専攻】

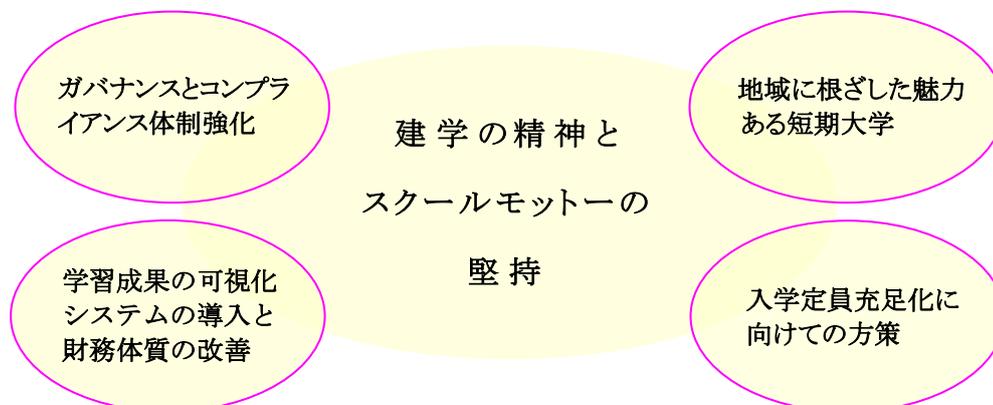
1. 社会福祉に関する科目の学びに力を入れて取り組むこと。
2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験すること。
3. 対人援助に関する科目での、自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）に関する学びに力を入れて取り組むこと。

1. 2022 年度学校法人和泉短期大学基本構想

理事長 須 田 拓

建学の精神 【キリスト教信仰に基づく教育と人格形成】

スクールモットー 【愛と奉仕】 【「あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい」マタイによる福音書第 5 章 16 節】



大学を取り巻く環境

18 才人口の減少	進学率		大学・短大の 財政赤字	大学の離学者・進路変更	短期大学 進学者の減少
	大学	短期大学			
1992 年 205 万人 2022 年 112 万 2040 年 80 万人	1992 年度 24.6% 2021 年度 54.4%	1992 年度 11.7% 2021 年度 4.2%	2020 年度 大学 32.4% 短大 69.8%	約 120,000 人 3.3 % (経済的理由、学習意欲の喪失、 不本意入学、人間関係等) 非正規雇用の増加	2021 年度 専門学校への 進学者増加 24.0%

2022 年度 事業計画

2 年間に及ぶ新型コロナウイルス感染症拡大は、学校法人の運営にもかなりの影響を与えました。コロナ禍において本学は、少人数による分散授業、オンライン授業と対面授業のハイブリッド型授業を実施し、今までにない授業形態の工夫と感染防止に努めて参りました。

教職員の尽力により、学生には、対面による授業と同等の質の高い授業を提供することが出来たと思います。

2022 年度も新型コロナウイルスの新変異種の発生も見込まれ、収束が見込めない状況です。そのような中でも学生、教職員が疲弊することなく、法人役員も含めて全学が一体となって困難を乗り越え、希望に変えていきたいと思ひます。2022 年度は次の 5 つ柱を法人の基本構想といたします。

第一は、建学の精神とスクールモットーの堅持です。

学校法人和泉短期大学は 2022 年度で創立 66 年を迎えます。どのような時代においても、本法人の原点を大切にしていきたいと思ひます。本学は建学の精神として「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を掲げており、その建学の精神を凝縮したスクールモットー「愛と奉仕」は、キリスト教の最も基本的な教えを表しています。

先行き不透明な時代、予測困難な時代においても、地域社会の要請に応じて、良き働き手となる保育者を養成することが公共性と社会的責任を負う和泉短期大学の責任と使命であります。そのためには、この建学の精神とスクールモットーが本学の歩みや教育の全体にますます浸透してゆくことが重要です。キリスト教信仰の本質がわかりやすく伝えられ、本学の精神が堅持され、ただ知識を伝達するだけでなく保育者の人格が形成されてゆく教育がなされてゆくよう、努めたいと思ひます。

第二は、ガバナンスとコンプライアンス体制の強化です。

昨年末からマスコミ等で報道されている、「学校法人のガバナンス」です。12月3日に「学校法人ガバナンス会議」の報告書が文部科学大臣宛に提出されましたが、報告書の内容が社会福祉法人に倣ったもので私立学校の運営に合っていないとの意見が多数出されたため、新たに文部科学省の大学設置・学校法人審議会大学分科会の下に、「学校法人制度改革特別委員会」が設置され、理事・監事・評議員の在り方を検討することになりました。本法人もガバナンス・コンプライアンスの体制強化は重要事項と受け止め、第7代理事長の深町先生の時代から第2次中期計画（2020年度～2024年度）15のビジョン及び年度ごとの法人基本方針としてきました。ガバナンス・コンプライアンスの強化のために自主的・自律的に「学校法人和泉短期大学ガバナンス・コード」により「コンプライ・オア・エクスプレイン」に取り組み、教職員及び外部に公表すると共に、法人の理事会・評議員会のあり方を検討していきたいと考えております。

第三は、地域密着型の短期大学であることです。

和泉短期大学は相模原市と包括連携協定を締結し、毎年度、約40の相模原市各委員会に学識経験者として本学教員を派遣して、地域連携活動の推進をしています。また、相模原市こども・若者未来局保育課、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、産業界等との恒常的な連携により、プラットフォームを構築して、地域の課題解決と教育研究の取り組みの推進、高等学校との高大接続授業プログラム、相模原市内高等学校長との教育研究会を行っており、これらは本学としても特に重視している事業です。デジタル技術の急速な進化、現代の複雑な社会など予測困難なVUCA時代において、地域密着・実力養成型の教育力を高等学校長との意見交換を通して学び合うことは、互いに直面する教育の課題を共有することでもあり、本学にとっても誠に意義深いことであるため、今後も継続して行きたいと思っております。

その他にも公開講座、高大接続授業研究プログラム、福祉施設との連携、オレンジリボン作成・配付、福祉ふれあい体験、そして、本学に設置している児童福祉研究室刊行の「いっしょに子育て」、子育てひろば「はっぴい」、「すまいいい」を通じて、地域に根ざした事業を行って参ります。

さらに2021年度からは小学生の体験学習も加わり、今後も、小学校、中学校、高等学校との連携をさらに深め、地域の中核となる魅力ある短期大学を目指す取り組みをして参ります。

第四は、教育の質の充実と財務体質の健全化です。

2021年度に7年に1回の国の認証評価機関による第3回認証評価を受審いたしました。理事長、学長、事務局長、法人役員、教職員が一体となって「自己点検・評価報告書」を作成し、多くのエビデンスに基づいた資料を作成しました。コロナ禍のため4人の評価員によるオンライン評価でありましたが、評価員には、対面時と同様に4つの基準を厳正かつ親身に評価していただき、「適格」認定の評価を得ることが出来ました。本学の教育力が認められたことにより、今後も引き続き学生本位の伝統ある保育者養成校としての使命を全うして参ります。

2022年度は、本学の教育の質保証としての学習成果の可視化のために、教学マネジメントを実質化するための学習成果可視化システムの導入を行います。このシステムを導入することで教職員、学生が和泉短期大学の2年間で何が出来るようになったかをレーダーチャートにより確認し、保育者養成校としての教育の質保証のエビデンスになることを願っております。

法人の財務状況については、2017年度から入学定員は未充足の状態が続いていることが大きく影響しています。小規模である本法人は、収入の大部分を学生生徒等納付金収入に依存しており、そのため、収支状況は支出超過の状態が続いています。そこで策定した「経営改善計画書」に基づき、併

せて第2次中期計画（2020年度～2024年度）15のビジョンの⑭「出るを制して、入るを図る」により、財務体質の改善を行い、財政基盤安定化に向けての運営をして参ります。

第五は、入学定員の充足化に向けての方策です。

日本私立学校振興・共済事業団の調査によると、私立大学の入学定員未充足校の割合は46.4%で過去最低でした。短期大学の未充足校は83.6%でした。本学は、これまでの4年間の受験者及び入学者の実績を踏まえて、入学定員の適正化を検討し、2022年度から児童福祉学科の入学定員を250名から200名に変更する学則の届出を行いました。

専攻科介護福祉専攻は、介護福祉士を目指す学生の急減により、ここ数年の入学希望者数は大変に厳しい状態でした。日本で最初の老人福祉専門学校を設置した本学ですが、学内に将来検討委員会を設置して丁寧かつ慎重に検討し、教授会、職員会議、さらに評議員会、理事会での慎重審議を経て、2023年度末を以て学生募集を停止することを決定しました。

このような厳しい状況を受け、児童福祉学科では、2022年度に行う2023年度入試において、入学定員充足に向けた大胆な入試改革を行うことを教授会で決定しました。また、専攻科に代わる新たな教育事業について、教授会で検討の上、理事会と一体となって検討していくことが理事会で確認されています。本学の伝統を受け継ぎ、教育の質を高めつつ、入学者定員充足のために力を尽くして行きたいと思っております。

法人事業計画

○理事会

2022年	5月	27日(金)	理事会(決算)	於：和泉短期大学
2022年	10月	22日(土)	理事会(予算骨子)	於：和泉短期大学
2023年	1月	28日(土)	理事会	於：和泉短期大学
2023年	3月	24日(金)	理事会(予算)	於：和泉短期大学

○評議員会

2022年	5月	27日(金)	評議員会(決算)	於：和泉短期大学
2022年	10月	22日(土)	評議員会(予算骨子)	於：和泉短期大学
2023年	3月	24日(金)	評議員会(予算)	於：和泉短期大学

○学内運営協議会

▶ 出席者：理事長、学長、副学長、チャプレン、教務部長、事務局長、学生部長、庶務ユニットリーダー

2022年	4月	6日(水)	4月	13日(水)	4月	20日(水)	4月	27日(水)
	5月	11日(水)	5月	18日(水)	5月	25日(水)	6月	1日(水)
	6月	8日(水)	6月	15日(水)	6月	22日(水)	6月	29日(水)
	7月	6日(水)	7月	13日(水)	7月	20日(水)	7月	27日(水)
	8月	3日(水)	8月	31日(水)	9月	7日(水)	9月	14日(水)
	9月	21日(水)	9月	28日(水)	10月	5日(水)	10月	12日(水)
	10月	19日(水)	10月	26日(水)	11月	2日(水)	11月	9日(水)
	11月	16日(水)	11月	30日(水)	12月	7日(水)	12月	14日(水)
	12月	21日(水)						
2023年	1月	11日(水)	1月	18日(水)	1月	25日(水)	2月	1日(水)
	2月	8日(水)	2月	15日(水)	2月	22日(水)	3月	1日(水)
	3月	8日(水)	3月	15日(水)	3月	22日(水)		

○法人行事

2022年	4月	18日(月)	イースター礼拝
	5月	16日(月)	創立記念礼拝
	6月	6日(月)	ペンテコステ礼拝
	10月	17日(月)	召天者記念礼拝
	10月	31日(月)	宗教改革記念礼拝
	12月	10日(土)	クリスマス・コンサート
	12月	12日(月)	クリスマス礼拝
2023年	1月	6日(金)	新年礼拝
	3月	4日(土)	和泉スプリングコンサート

2.和泉短期大学

「2022年度事業計画」

学長 佐藤 守 男

2021年11月27日（土）第3回理事会におきまして、次期学長の選考があり、審議の結果、私が再任されました。現在のわが国の高等教育機関を取り巻く環境は多様化し、しかも1992年の18歳人口は205万人あったものが2022年にはその約半分の112万人に激減するこの時期に、学長職を仰せつかったことは、大変責任のあることであり、その重さを強く受け止めているところでございます。

さて、2022年度の事業計画は、以下の7項目としました。

1. キリスト教信仰に基づく人格教育の強化
 2. 専攻科募集停止後の地域貢献の強化
 3. 専攻科募集停止後の専攻科教員の処遇
 4. 離学者の防止対策
 5. 入試改革
 6. ソーシャルワークのできる保育者養成4年制大学にむけての検討
 7. 新校舎建設の検討
1. 本学の使命は、和泉で学ぶ者に幅広い教養と保育者としての専門的な知識・技術を修得させ、キリスト教信仰に基づく人格教育を行い、神と人の前で恥ずかしくない生き方ができる人へと成長してもらうことにあります。そのためには、キリスト教学校の土台となる「礼拝」をより豊かなものとし、「キリスト教関係の科目」を建学の精神を支える重要科目として、人格教育の核となるようにすべきであります。
2. 専攻科介護福祉専攻は2024年度より募集停止となりますので、介護に代わる地域への貢献を検討しなくてはなりません。以下はその代案です。
- ①子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいいい」を再開
 - ②「児童福祉研究室」の保育・福祉に関する講演や地域住民の相談支援
 - ③「相模原市保育連絡協議会」「相模原市幼稚園・認定こども園協会」との連携
 - ④「バット博士記念ホーム」「チャイルド・ファンド・ジャパン」「和泉保育園」とのより充実した協力関係
 - ⑤「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の施行に伴い、児童福祉学科に医療的ケア科目の導入
3. 専攻科募集停止に伴い、今までご尽力いただいた教員のその後を、児童福祉学科のカリキュラムまたは教育全般の中でご協力いただけるよう、準備したいと思っております。

4. 離学者防止対策であります。本学の離学者は過去3年間、6%（全国平均3.3%）を超えています。ここ数年の本学の主な離学の理由は、奨学金などが充実してきていますので「経済的困窮」というよりもむしろ「保育者志望のミスマッチ」や「学力不足」で入学している学生に多いようです。その対策を早急に練りたいと思います。

5. 「どのような学生を入学させるのか」という入口の検討をしたいと思います。本学は2022年度から入学定員250名から200名に変更しました。しかし、再び入学定員未充足が起きるのであれば、未充足の部分に、授業料免除という条件の下、社会人および成績優秀者を受け入れる「特待生制度」を設けることを検討したいと思います。基礎学力があり、目的意識の高い特待生は、他の学生にも良い影響を及ぼすであろうし、和泉全体の就学意欲を上げてくれることと思います。

6. 私の描く和泉の将来像は、『ソーシャルワークのできる保育者養成4年制大学』です。収容定員400名、入学定員100名とすれば無理して学力の低い学生を入学させる必要は無くなります。また、現在は女性の社会進出、働き方改革が進み、子育てにおいてもまた介護においても多種多様な問題が起きています。ですから、これからの保育者は子どもに焦点を当てるだけでなく、子どもの背後にある問題にも触れ、支援できる質の高いスキルを持つことが必要です。

本学も4年制大学になりますと、ゼミなどの時間を使って地域に出ていき、学生とともに生きて知識を学べる機会が多くなり、地域連携活動をする機会が増えると思います。

また、4年制への準備段階として、『教育学の認定専攻科（特例適用専攻科）』を置くことも検討したいと思います。学士の学位が授与でき、相模原市の保育園や幼稚園、認定こども園、施設等と連携して働きながら学ぶことができます。その上、専攻科の学生は、公務員に受かりやすくなるという傾向もあるそうです。このことは入試広報戦略にとっても良いかと思えます。

7. 新校舎建築の件ですが、世田谷より相模原に移転して45年が経過し、校舎は老朽化しています。しかし、私は建て替えよりも丁寧な修繕工事を続け、時が来たら和泉らしいリノベーションをしたらいと考えています。その浮いた費用で、遠隔教育やICT教育を充実させ、ウィズコロナ、ポストコロナにおいても良き保育者を輩出するための教育の質を充実させたいと思っています。建物よりも人を育てることを優先したいと思います。

以上の7項目です。この事業計画につきましては、教授会で定期的に討論し、職員の意見も聴いた上で、理事会、評議員会に提案し、理事会、評議員会、教授会が一体となって和泉短期大学の改革を行いたいと思っています。本学を一層、魅力ある短期大学にして参りたいと思います。

(1) 学事予定

2022年	4月	1日(金)	入学式
		4日(月)	1年前期オリエンテーション 2年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング 専攻科前期オリエンテーション
		5日(火)	1年、専攻科教科書販売、健康診断 2年前期オリエンテーション、アセスメントテスト①-1 教職員健康診断
		6日(水)	1年前期オリエンテーション 2年教科書販売、健康診断、アセスメントテスト①-2 専攻科前期授業開始
		7日(木)	1年前期オリエンテーション、アセスメントテスト①
		8日(金)	1年前期オリエンテーション、新入生研修会
		11日(月)	1年、2年前期授業開始
		18日(月)	イースター礼拝
		30日(土)	オープンキャンパス①
5月		9日(月)	2022年度第1回創立記念フェア
		10日(火)	高校教員対象進学説明会①
		11日(水)	高校教員対象進学説明会②
		14日(土)	オープンキャンパス②、はっぴい①
		15日(日)	創立記念日
		16日(月)	創立記念礼拝
		18日(水)	実習指導連絡会(幼稚園)
		20日(金)	ナイトオープンキャンパス①
		29日(日)	オープンキャンパス③
6月		3日(金)	ナイトオープンキャンパス②
		6日(月)	ペンテコステ礼拝 1年避難・防災訓練、感謝の祈り 2年実習(幼稚園)〈6月24日(金)まで〉 専攻科介護実習Ⅰ〈6月13日(月)まで〉
		11日(土)	はっぴい②
		15日(水)	高校教員対象進学説明会③
		18日(土)	オープンキャンパス④
		20日(月)	1年幼稚園保育体験準備(全教員)
		27日(月)	1年幼稚園保育体験(全教員)、2年実習予備日
		29日(水)	キャンパス見学会①
		30日(木)	かながわ高齢者福祉研究大会
7月		2日(土)	はっぴい③
		4日(月)	2022年度第2回サマーフェア
		8日(金)	ナイトオープンキャンパス③
		9日(土)	オープンキャンパス⑤
		15日(金)	1年前期授業終了
		18日(月)	1年前期定期試験①、 2年、専攻科月曜日分授業日
		19日(火)	1年前期定期試験②
		20日(水)	1年前期定期試験③
		21日(木)	1年前期定期試験④、専攻科前期授業終了
		22日(金)	1年前期定期試験⑤ 専攻科介護実習Ⅰ(訪問介護)〈8月2日(火)まで〉
		23日(土)	1年夏期休業開始〈8月28日(日)まで〉
		24日(日)	オープンキャンパス⑥

8月	3日(水)	専攻科前期定期試験①
	4日(木)	専攻科前期定期試験②
	5日(金)	1年成績報告書締切日、2年前期授業終了 専攻科前期定期試験③、成績報告書締切日
	6日(土)	2年前期定期試験① オープンキャンパス⑦
	8日(月)	2年前期定期試験②、専攻科前期定期試験④
	9日(火)	2年前期定期試験③、専攻科前期定期試験⑤
	10日(水)	2年前期定期試験④ 専攻科夏期休業開始〈8月28日(日)まで〉
	11日(木)	2年前期定期試験⑤
	21日(日)	オープンキャンパス⑧
	26日(金)	2年成績報告書締切日 専攻科Ⅰ日程①入試 おもちゃインストラクター養成講座
	27日(土)	普通救命講習Ⅲ(幼児・乳児・新生児) オープンキャンパス⑨
	28日(日)	1年、専攻科夏期休業終了
	29日(月)	1年、専攻科後期始業礼拝、グループミーティング、オリエンテーション、前期再試験発表
	30日(火)	1年アセスメントテスト②
	31日(水)	2年実習授業、キャンパス見学会②
9月	1日(木)	1年前期再試験〈2日(金)まで〉 専攻科前期再試験〈2日(金)まで〉
	2日(金)	専攻科後期授業開始
	5日(月)	2年実習(保育所・施設)〈9月21日(水)まで〉
	7日(水)	相模原市内高校長との教育研究会
	9日(金)	1年後期授業開始
	10日(土)	総合型選抜Ⅰ期9月①
	14日(水)	ナイトオープンキャンパス④
	17日(土)	総合型選抜Ⅰ期9月②、はっぴい④、キャンパス見学会③
	22日(木)	2年実習予備日
	24日(土)	2年後期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング、前期再試験発表、アセスメントテスト②
	26日(月)	2年後期授業開始
	28日(水)	2年前期再試験〈9月30日(金)まで〉 専攻科実習連絡会
10月	1日(土)	総合型選抜Ⅱ期10月①
	5日(水)	ナイトオープンキャンパス⑤
	10日(月)	2022年度第3回サンクスギビングフェア
	15日(土)	総合型選抜Ⅱ期10月②、専攻科Ⅰ日程②入試、はっぴい⑤
	17日(月)	召天者記念礼拝
	28日(金)	オータムフェスタ〈10月29日(土)まで〉
	29日(土)	キャンパス見学会④
	31日(月)	宗教改革記念礼拝 専攻科介護実習Ⅱ〈11月25日(金)まで〉
11月	5日(土)	総合型選抜Ⅲ期11月①
	11日(金)	専攻科帰校日
	12日(土)	学校推薦型選抜[指定校Ⅰ期、公募、専門、キリスト教]
	16日(水)	実習指導連絡会(保育所・施設)
	19日(土)	はっぴい⑥
	26日(土)	総合型選抜Ⅲ期11月②、社会人特別選抜Ⅰ期 専攻科A日程入試

11月	28日	(月)	専攻科介養協学力評価テスト アドベント礼拝1
12月	3日	(土)	学校推薦型選抜(指定校Ⅱ期)
	5日	(月)	アドベント礼拝2
	10日	(土)	はっぴい⑦、はっぴいクリスマスコンサート
	12日	(月)	クリスマス礼拝 2022年度第4回クリスマスフェア
	16日	(金)	1年後期授業終了
	17日	(土)	総合型選抜Ⅳ期12月、オープンキャンパス⑩
	19日	(月)	1年後期定期試験① 2年、専攻科後期授業中断、冬期休業開始(2023年1月9日(月)まで)
	20日	(火)	1年後期定期試験②
	21日	(水)	1年後期定期試験③
	22日	(木)	1年後期定期試験④
	23日	(金)	1年後期定期試験⑤
2023年	1月	6日	(金) 新年礼拝 専攻科国家試験対策学内テスト(午後)
		9日	(月) 1年、2年、専攻科冬期休業終了
		10日	(火) 1年実習授業 2年、専攻科後期授業再開
		12日	(木) 1年実習(保育所・施設)(1月27日(金)まで)
		13日	(金) 1年成績報告書締切日
		14日	(土) 総合型選抜Ⅴ期1月、専攻科B日程入試 入学前教育①、はっぴい⑧、キャンパス見学会⑤
		20日	(金) 2年後期授業終了
		23日	(月) 2年後期定期試験①
		24日	(火) 2年後期定期試験② 専攻科国家試験対策講座(27日(金)まで)
		25日	(水) 2年後期定期試験③
		26日	(木) 2年後期定期試験④
		27日	(金) 2年後期定期試験⑤
		30日	(月) 1年実習授業、後期再試験発表
		31日	(火) 専攻科後期授業終了
2月	1日	(水)	1年実習授業、専攻科後期定期試験①
	2日	(木)	2年追再実習(2月22日(水)まで) 専攻科後期定期試験② 入学前ピアノレッスン①
	3日	(金)	専攻科後期定期試験③
	4日	(土)	はっぴい⑨
	6日	(月)	専攻科後期定期試験④ 1年実習(施設・保育所)(2月21日(火)まで)
	7日	(火)	2年成績報告書締切日 専攻科後期定期試験⑤
	8日	(水)	入学前教育②
	11日	(土)	総合型選抜Ⅴ期2月、専攻科C日程入試 オープンキャンパス⑪
	14日	(火)	専攻科成績報告書締切日
	16日	(木)	入学前ピアノレッスン②
	17日	(金)	2年、専攻科後期再試験発表
	20日	(月)	2年、専攻科後期再試験
	24日	(金)	2年追再実習者再試験

2月	25日	(土)	一般選抜、社会人特別選抜Ⅱ期 和泉プレカレッジ
	27日	(月)	1年実習授業、1年後期再試験〈2月28日(火)まで〉
3月	1日	(水)	2023年度全教員打合せ会
	2日	(木)	おもちゃインストラクター養成講座 入学前ピアノレッスン③
	4日	(土)	総合型選抜Ⅴ期3月、専攻科D日程入試 和泉スプリングコンサート オープンキャンパス⑫、はっぴい⑩
	8日	(水)	入学前教育③、FD・SD研修会
	13日	(月)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科修了感謝礼拝、修了証書授与式予行練習
	14日	(火)	2年卒業証書・学位記授与式、専攻科修了証書授与式
	25日	(土)	オープンキャンパス⑬

(2) 実習

2022年	6月	6日	(月)	～	6月24日	(金)	2年幼稚園
	6月	6日	(月)	～	6月13日	(月)	専攻科介護実習Ⅰ
	7月	22日	(金)	～	8月2日	(火)	専攻科介護実習Ⅰ (訪問介護)
	9月	5日	(月)	～	9月21日	(水)	2年保育所・施設
	11月	1日	(火)	～	11月25日	(金)	専攻科介護実習Ⅱ
2023年	1月	12日	(木)	～	1月27日	(金)	1年保育所・施設
	2月	2日	(木)	～	2月22日	(水)	2年追再実習
		6日	(月)	～	2月21日	(火)	1年施設・保育所

2023年度 児童福祉学科 入試日程

入試区分	試験日 (選考日)	エントリー 期間	出願許可 判定教授会	出願 許可	出願期間	合格 発表日	判定 教授会	入学手続 期間
総合型選抜 Ⅰ期 9月①	9/10 (土)	9/1(木) ～9/7(水)	9/12 (月)	9/13 (火)	10/1(土) ～10/7(金)	11/1 (火)	11/14(月) 〔追認〕	11/2(水) ～11/16(水)
総合型選抜 Ⅰ期 9月② 愛の泉スカラシッ プ入試を含む	9/17 (土)	9/1(木) ～9/14(水)	9/21 (水)	9/22 (木)	10/1(土) ～10/7(金)			
総合型選抜 Ⅱ期 10月①	10/1 (土)	9/20(火) ～9/28(水)	10/3 (月)	10/4 (火)	10/6(木) ～10/14(金)			
総合型選抜 Ⅱ期 10月②	10/15 (土)	10/10(月) ～10/12(水)	10/17 (月)	10/18 (火)	10/20(木) ～10/28(金)			
総合型選抜 Ⅲ期 11月①	11/5 (土)	10/24(月) ～10/29(土)	11/7 (月)	11/8 (火)	11/9(水) ～11/16(水)	11/22 (火)	11/30(水) 〔追認〕	11/24(木) ～12/8(木)
学校推薦型選抜 指定校推薦Ⅰ期	11/12 (土)	—	—	—	11/1(火) ～11/9(水)	12/1 (木)	11/14(月)	12/2(金) ～12/9(金)
学校推薦型選抜 キリスト教推薦								
学校推薦型選抜 公募推薦 専門高校推薦								
総合型選抜 Ⅲ期 11月②	11/26 (土)	11/7(月) ～11/22(火)	11/30 (水)	12/1 (木)	12/2(金) ～12/5(月)	12/7 (水)	12/5(月) 〔追認〕	12/8(木) ～12/16(金)
社会人特別選抜 Ⅰ期	11/26 (土)	—	—	—	11/7(月) ～11/22(火)	12/1 (木)	11/30(水)	12/2(金) ～12/9(金)
学校推薦型選抜 指定校推薦Ⅱ期	12/3 (土)	—	—	—	11/21(月) ～11/30(水)	12/7 (水)	12/5(月)	12/8(木) ～12/16(金)
総合型選抜Ⅳ期 12月	12/17 (土)	11/28(月) ～12/14(水)	12/21 (水)	12/22 (木)	12/23(金)～ 2023/1/6(金)	1/11 (水)	1/16(月) 〔追認〕	1/12(木) ～1/19(木)
総合型選抜Ⅴ期 1月	1/14 (土)	1/6(金) ～1/11(水)	1/16 (月)	1/17 (火)	2023/1/18(水) ～1/23(月)	1/25 (水)	1/25(水) 〔追認〕	1/26(木) ～2/9(木)
総合型選抜Ⅴ期 2月	2/11 (土)	2/1(水) ～2/8(水)	2/15 (水)	2/16 (木)	2023/2/17(金) ～2/22(水)	2/24 (金)	2/27(月) 〔追認〕	2/27(月) ～3/6(月)
一般選抜	2/25 (土)	—	—	—	2023/2/1(水) ～2/22(水)	2/28 (火)	2/27(月)	3/1(水) ～3/8(水)
社会人特別選抜 Ⅱ期	2/25 (土)	—	—	—	2023/2/1(水) ～2/22(水)	2/28 (火)	2/27(月)	3/1(水) ～3/8(水)
総合型選抜Ⅴ期 3月	3/4 (土)	2/13(月) ～3/1(水)	3/6 (月)	3/7 (火)	2023/3/8(水) ～3/10(金)	3/11 (土)	3/15(水) 〔追認〕	3/13(月) ～3/17(金)

神奈川県委託訓練生 専門人材育成コース (保育士)

ハローワーク、神奈川県立東部総合職業技術校、人材育成支援 センター 各地区のハローワーク扱い	募集期間
	2023年2月末、 3月中旬(予定)

児童福祉学科入試一覧

入試の種類	特徴・選考	定員
総合型選抜	①授業参加コース 特別授業受講後にレポート作成して臨む、論述を重視した選考 〔事前にエントリーシート+授業参加レポート→選考日に事前面談〕	90
	②保育・福祉コース 高校での保育や福祉の学び・体験を活かした選考 高校で保育福祉に関する科目を学んだ者、実習・インターンシップ・ボランティア等の保育福祉に関する活動を行った方 〔事前にエントリーシート+保育・福祉レポート→選考日に事前面談〕	
	③アサーションコース 今までの学びや経歴等の自己表現を重視した選考 〔事前にエントリーシート+アサーションレポート→選考日に事前面談〕	
	④卒業生・家族コース 本学の卒業生、在学生などの親族がいる方で本学への進学を特に強く希望する志願者を対象とした選考 〔事前にエントリーシート+卒業生・家族レポート→選考日に事前面談〕	
学校推薦型選抜	①指定校推薦 本学指定の高校からの推薦で行う入試 〔高等学校の調査書全体の評定平均値 3.0 以上、詳細は在学する高等学校にお問い合わせください。〕	85
	②キリスト教推薦 キリスト教学校に通う方、教会に通う方、キリスト者やキリスト教に理解を有する方（求道者）対象の入試 〔出願時に志望の動機+高校の調査書+学校長の推薦書→選考日に面接〕	5
	③公募推薦 在学・出身校を問わず、ひろく開かれた入試 〔出願時に高校の調査書+学校長の推薦書→選考日に文章表現（作文）+面接〕	8
	④専門高校推薦 総合学科、職業学科等での学びを活かした入試 〔出願時に専門高校学修調書+高校の調査書+学校長の推薦書→選考日に文章表現（作文）+面接〕	
社会人特別選抜	2023年4月1日の時点で24歳以上の方 〔出願時に志望の動機+出身高校の調査書→選考日に面接〕	7
一般選抜	〔出願時に高校の調査書→選考日に国語総合(古文・漢文を除く)、記述式問題を含む)、英語、記述式総合問題+面接〕	5

3. 専攻科介護福祉専攻

1. 介護福祉士国家試験対策に強い教育体制の構築

介護福祉士国家試験対策

- ① 介護協学力評価テスト(12月)
- ② 国家試験対策学内テスト(1月)
- ③ 学内国家試験対策(3日間)
- ④ 学力評価テストや国家試験対策学内テストの結果を学生に視覚化し指導

2. 専攻科入学者数の増加を図る

(1) 全学的な取り組みとして児童福祉学科のグループアドバイザーの協力を得る

- ① 2月1年生へ進路先のアンケートを行い専攻科の周知を図る
- ② 4月2年生にオリエンテーションで説明
- ③ 5月2年生への周知をする
- ④ 9月2年生へ福祉系の教員より専攻科入学を勧める。また学生支援との連携を図る
- ⑤ 保証人会を通して、家族への広報
- ⑥ 2年生就職懇談会にて専攻科生の発表
- (2) 同総会会誌に専攻科のチラシで広報

3. 実習の充実

- (1) 施設見学実習の実施
- (2) 学生個々に応じた実習指導の充実
- (3) 新カリキュラムに向けた実習内容を開始
- (4) 実習巡回指導の充実
- (5) 事例研究の指導
- (6) 事例研究発表会の開催
- (7) 事例集の作成
- (8) 実習連絡会の開催
- (9) 高齢者・障がい施設へのボランティアの充実

4. COVID-19 への徹底した防止対策

- (1) 教室の座席の固定化
- (2) 30分に1回の換気の徹底
- (3) 実習室を使用する場合の感染予防の徹底
 - ① 実習着、実習靴に着替える
 - ② 実技実習前後の手洗いの徹底
 - ③ 終了後の実習靴の足底の消毒
- (4) 以上の事項を非常勤の先生方への伝達

5. 就業力支援

- (1) かながわ高齢者福祉研究大会への参加
- (2) 専攻科修了生による職場体験の発表
- (3) 特別講義の実施

6. 地域貢献活動

- (1) 相模原市高齢者福祉協議会主催の研修の講師とし、介護職員のスキルアップ支援
- (2) 相模原市高齢者福祉協議会と共同し、介護福祉士資格取得のための支援
- (3) 青葉 2 丁目の町内会高齢者の方との世代間交流
- (4) 相模原市主催の市民大学の講師として参加し、地域貢献を図る

7. 専攻科歩み（共同研究）の検討

2023 年度 専攻科介護福祉専攻 入試日程

介護福祉専攻科（入試日程）

入試区分	試験日	出願期間	結果発表日	判定教授会
I 日程①	8/26(金)	8/1(月) ~ 8/22(月)	8/30(火)	8/29(月)
I 日程②	10/15(土)	10/3(月) ~ 10/12(水)	10/18(火)	10/17(月)
A 日程	11/26(土)	10/24(月) ~ 11/22(火)	12/1(木)	11/30(水)
B 日程	2023 年 1/14(土)	12/12(月) ~ 1/11(水)	1/17(火)	1/16(月)
C 日程	2/11(土)	2023/1/17(火) ~ 2/8(水)	2/16(木)	2/15(水)
D 日程	3/4(土)	2/2(木) ~ 3/1(水)	3/7(火)	3/6(月)

◎ 2024 年度学生募集停止

4. キリスト教活動

1. 概要

建学の精神「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」に基づくキリスト教活動が教育の柱であることを、学生・教職員に働きかける。学生一人ひとりが聖書の教えを深く理解し、本学での学びを経て、神を畏れ敬う心と、隣人に仕える人格を有する保育・福祉実践者となることを目的として下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、チャプレン、宗教部長、教授会構成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

3-1 年間聖句

学園を導いてくださる神様からの御言葉として下記の年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに記するほか、さまざまな場面で掲げ、学生及び教職員が常に心に留めて歩むようにする。

2022 年度年間聖句「キリストの言葉があなたがたの内に豊かに宿るようにしなさい。」

(コロサイの信徒への手紙 3 章 16 節)

3-2 始業礼拝

神様によって学びと学生生活がすべて守られるように、前期・後期の始業時に礼拝を捧げる。

3-3 チャペルアワー

週の学び始めの月曜日に、キリスト教活動の中心として、毎週月曜日 2 時限にチャペルアワーをおささげする。聖書の御言葉に聴き、説教者や奨励者を通して語られるメッセージに触れ、賛美と感謝と祈りを通し、一人ひとりが建学の精神の具現化、スクールモットー「愛と奉仕」の実践者とされていくことを目指す。

年間を通じて、より多くの学生の出席を求めていくため、いくつかの授業とも連携していく。

3-4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

- 1) イースター礼拝（4 月 18 日）
- 2) 創立記念礼拝（5 月 16 日）
- 3) ペンテコステ礼拝（6 月 6 日）
- 4) 召天者記念礼拝（10 月 17 日）
- 5) 宗教改革記念礼拝（10 月 31 日）
- 6) アドベント礼拝 1（11 月 28 日）
- 7) アドベント礼拝 2（12 月 5 日）
- 8) クリスマス礼拝（12 月 12 日）
- 9) 卒業・修了感謝礼拝（3 月 13 日）

3-5 新入生研修会

4 月 8 日（金）に新入生研修会を実施する。講演会（賛美とメッセージ）、及び宗教部オリエンテーションを通して、今後の学びの礎を培う。

3-6 クリスマスコンサート（子育て支援プログラム「はっぴい」と共催）

12月10日に子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

3-7 献金

チャペルアワーごとに、神様への感謝を表すために献金をおささげする。この献金は、神様への献身のしるしであることを認識したうえで、チャイルド・ファンド・ジャンプのスポンサーシッププログラムへの参画と全国の児童福祉施設などへの支援に用いる。

3-8 和泉クリスチャン・フェローシップ（I.C.F.）

学生たちが聖書に親しむことを目的として集う和泉クリスチャン・フェローシップの活動を、毎月一度程度行う。

3-9 学生聖歌隊

讃美歌、子ども讃美歌、宗教曲の合唱練習活動を通じ、仲間とともにキリスト教音楽に親しみ、チャペルアワー、特別礼拝における奉仕のための練習を中心に活動する。チャペルアワー、特別礼拝、学内諸行事にて賛美奉仕する。

3-10 ハンドベルクワイア

選択科目である「ハンドベルⅠ」「ハンドベルⅡ」「ハンドベルⅢ」「ハンドベルⅣ」と連携し、科目担当者・履修学生によって、入学式、クリスマス礼拝、卒業修了感謝礼拝などで賛美奉仕する。

3-11 教会紹介

掲示や、チャペルアワーでのチラシ配布などを通して、本学近隣の教会について周知する。また、学生の教会出席を奨励するため、「キリスト教概論」、「キリスト教保育」、「キリスト教倫理」、「キリスト教社会倫理」の授業と連携する。

4. 2022年度の重点課題

4-1 キリスト教活動が教育の柱であるとの認識を全学で共有する。

- ・建学の精神に基づくキリスト教活動が教育の柱であることを、学生・教職員に伝え働きかける。
- ・学生の授業期間は、チャペルアワーをおささげする（動画配信のみも含む）。
- ・動画配信を安定的に行えるような設備・備品を整え、必要に即応できる体制を構築する。

4-2 キリスト教活動への学生の主体的参画を図る。

- ・学生のチャペル委員の担当役割を明確化する。チャペルアワーの受付のみならず、個々に得意なことを生かして能動的に携われるようにする。
- ・これまで同様、授業との連動を図りつつも、授業の課題と絡まないチャペルアワーへの主体的出席＝「チャペルアワーは出席するもの」という雰囲気醸成できるよう工夫する。

4-3 「教えとともに 3」の発刊

- ・卒業・修了後も母校である本学の建学の精神に立ち返ることができるように、チャペルアワーメッセージ集「教えとともに 3」を発刊する。

5. 研究活動

佐藤守男 学長

【研究課題】

1. 彫刻等の表現（形・素材）の可能性について
2. 日本や欧米の美術館・画廊の調査研究

【教育課題】

1. 造形表現の教材研究

【学会参加予定】

個展、グループ展、日本美術家連盟、
民族藝術学会、日本臨床死生学会 他

大下聖治 教授

【研究課題】

1. 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム(継続)
2. 運動技術の方法的運動系列に関する検討(継続)
3. 指導技術(コーチング)の習得に関する研究(継続)
4. 身体運動・表現遊びと安全対策に関する研究(継続)

【教育課題】

1. 乳幼児期の発達に効果的な運動・遊び・環境構築について、学生個々が理解を深め、基本的な援助技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
2. 保育・福祉の現場で必要となる体力的要素の養成とサポート
3. 子どもの「身体運動遊び」及び「身体表現遊び」に積極的に関わり、環境の構築と工夫ができる保育者の育成
4. 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーの養成
5. 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援

【学会参加予定】

1. 日本体育学会
2. 日本体力医学会
3. 日本保育学会

【社会的活動】

1. 全国保育士養成協議会 理事

保育士を養成する学校を会員とする団体。会員校の教職員等の参加による調査・研究、研究誌の発行、研修会の開催等を行っている。

2. 全国保育士養成協議会関東ブロック 理事

保育士を養成する関東の学校を会員とする団体。会員校の教職員等の参加による調査・研究、研究誌の発行、研修会の開催等を行っている。

3. 座間市子ども・子育て会議 会長

子ども・子育て支援法に規定する子ども・子育て支援事業計画の策定等に関し、市長の諮問に応じて調査審議を行う。

4. 社会福祉法人相模原市社会福祉協議会苦情解決第三者委員

苦情に対する社会性や客観性を持った「第三者委員」として、公正・中立で一定のルールに沿った苦情解決ができるように調整。

5. 座間市総合戦略推進懇話会委員

座間市総合戦略で掲げる重要業績評価指標の進捗状況の検証及びその評価等を行う。

武 石 宣 子 特任教授

【研究課題】

1. リトミック教育(リズム運動・ソルフエージュ・即興演奏・プラスチック・アニメを含む)に関する研究
2. プラスティック・アニメの研究
(子どもの歌を題材、小道具<フープ・ゴム・スカーフ等々>を用いて)
3. 子どもの歌の簡易伴奏法の研究
(レベルに合わせたアレンジ法、前奏後奏の工夫)
4. コロナ禍における表現型教科目の効果的な指導法及びシラバス研究
(教科目『リトミック』、教科目『子どもと音楽』)
5. 子どもと音楽(ML・ピアノ)に関する教材研究
6. 動きの為の即興：声・身体・楽器を用いての誰でも簡単にできる工夫
(グリッサンド・2音列・ドレミファソラシド・全音音階・黒鍵・魔法・びっくり音・イメージ音楽等々)

【教育課題】

1. リトミック(選択教科目)の授業内容、授業運営の工夫
2. 子どもと音楽(ML・ピアノ)の授業内容、授業運営の工夫
3. 親子リトミック(親子ふれあい遊び、子育て支援)の指導方法の充実
4. 1コマ105分導入による授業展開の工夫

【所属学会等】

大学教育学会 日本保育学会 日本音楽教育学会
日本ダルクローズ音楽教育学会 大学音楽教育学会
日本乳幼児教育学会 日本キリスト教社会福祉学会
日本保育者養成教育学会 初年次教育学会

松 浦 浩 樹 教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と拠点の必要性について」(その3)
継続研究として、テーマ設定の変更：「子どもの遊びの充実と中心性(拠点)について」(その3) 関連研究として、「子どもの遊びの充実と秩序感の生成過程について」
「幼児期の遊びと学びの相関関係」
「アクティブラーニング時代の幼児教育の意味」
2. 幼児期における両義的認識の発達過程について

3. キリスト教保育の現状と課題

「キリスト教保育指針」キリスト教保育連盟 2021 年度内発行予定：研究委員会委員長

4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究 (～2015 年まで)
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究 (～随時継続)
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究 (～2012 年まで)
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題 (～2015)、保育就業力育成プログラムの現状と課題
8. 「学び」の脱学校化と文化的創造への課題(テーマ「施設化する生」の継続的研究)
9. 「大学講義科目におけるアクティブラーニングの可能性

—保育原理・教育原理における実践と省察—

上記テーマに基づき、協力園(幼稚園・保育園)での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ 6、7 に関して、学内で関与する学生、保護者(親子)との実際のなかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

10. 教育目的の潜在性と出会いとしての真実の探求(キリスト教教育)

【教育課題】

1. 短大における学び・保育者への学びについての態度変容について、新入生に対して「保育原理」・2 年生に対して「教育原理」の授業の中で、主にアクティブラーニングを通じて実践していくこと。さらに、今年度は保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相關させるプログラムの開発と工夫に努力する。
2. 2020 年度に促進されたオンライン授業に関して、COVID-19 感染拡大防止の観点を超越し、今後は幅広く ICT 教育の活用として有効かつ質の高い授業展開を目指し、その授業研究や FD を通じて、授業・講義への有機的活用に向けた教員間のコンセンサスを図っていく。
3. 上記の取り組みを通じて、教育・保育の目的論(潜在性と教育的配慮の真実性)を明確に学ばせる。
4. 「保育原理」、「教育原理」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ(事例・ビデオ)を収集すると共に、これらを学生に還元し、人間現象を考察する力・人間教育としての保育への理解を促進する。

【参加予定学会等】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本キリスト教教育学会
4. 子どもと保育総合研究所・所員研究会
5. OMEP(世界幼児教育機構)日本委員会 国際共同研究
6. キリスト教保育実践研究会
7. キリスト教保育連盟 カリキュラム委員会
8. キリスト教保育連盟 保育実践研究委員会・委員長
9. 保育教諭養成課程研究会(文科省重点課程研究)
10. 全国保育士養成協議会 実行委員
11. 日本キリスト教教育学会論集編集委員会 事務局 担当

【地域貢献】

1. キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師

2. 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
3. 相模原市保育士会所属保育園の継続的保育観察と研究指導
4. 学校法人雲柱社松沢幼稚園：評議員
5. 学校法人宮の台幼稚園：理事
6. 学校法人愛育学園愛育養護学校（特別支援学校）：評議員
7. 学校法人椿学園でんえん幼稚園：理事
8. 学校法人相愛学園武蔵野相愛幼稚園：評議員
9. 社会福祉法人御殿場コロニー野菊寮：監事
10. 社会福祉法人相模和泉福祉会和泉保育園：理事
11. 社会福祉法人横浜 YMCA 福祉会：評議員

【その他委員会等】

1. 教務委員会の部長として、これまでの沿革を尊重しつつ、より豊かな「教育—学習」環境を整備する。2014 年度導入した 1.2 年生の共同授業(保育実習・教育実習)の有機的展開をさらに工夫し、「2 年生が保育学の先輩として成長する」ことを促進し、1 年生の学習意欲や動機]を高める場の保証を他の講義・授業においても模索する。
また、開講授業全体を通じて、演習科目に限らず、講義における「アクティブラーニング」の可能性を求め、学生の豊かで創造的な学びを促進する提案を各授業担当者にしていく。2019 年度に作成したアクティブラーニングの実施アンケート(2020 年度から実施予定)について、2020 年度は、COVID-19 感染拡大による緊急事態下、また解除後の分散登校分散対面授業、オンライン授業の導入の影響で実施できなかった。2022 年度は 2021 年度後期の AL 実施率、実施内容を調査分析し、学びの活性化に努めていく。
2. また 2020 年度からは、上記記載の通り、COVID-19 感染拡大への警戒により、これが後押しとなってオンライン授業の導入の促進が図られた。2022 年度は COVID-19 感染拡大防止の観点を超越し、ICT 教育を促進する観点から、より質の高い養成教育求めて具体的な授業改善の提案を行う。
3. 上記の具体的取り組みとして、学習成果の可視化を目指して ICT の導入（ICT を利用した往還型の学習）を図り、下記のような連形体制を構築する。
4. 教務委員会の下部委員会として、学びのマネジメント WG（旧キャリアデザイン委員会・ポートフォリオ WG）・専攻科介護福祉専攻委員会を有機的に統括し、特に科目「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」と「保育実習 各科目」、そして子育て支援での取り組みが学生の実践的な職業教育として、系統的に繋がりをもったものとして位置付くようカリキュラムの関連付けを強化していく。またラーニングセンター、そして 2020 年度新設されたオンライン授業促進WGとの連携においては組織的有機的運営に努め、これらの委員会が相互に連携を図りながら学生の学びの可視化を進めていく。同時に、離学者改善検討委員会においては、学生部との連携を強化しつつ、学習以外の支援の可能性を探る。
5. キャリアデザインセンター（CDC）の有効活用とプログラム、及び地域貢献(連携)の新たな可能性を探る。これまで地域の親子を中心に貢献を図ってきたが、新たに「高齢者」を視点においた「地域に根差した」キャンパス構想を提案していく。
6. キリスト教学校として、宗教部と連携を強め、建学の精神（アドミッション・ポリシー）に根差した総合的・系統的学び、特にキリスト教精神の理解に基づく職業召命観の豊かな形成

をめざし、入学前教育から導入し、入学後はキリスト教関連科目はもとより、「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」等の授業におけるカリキュラム内容を工夫することに努める。

7. 2018年より「教職課程WG」を設立し、「教職研究」と題した、研究誌を出版。2021年度も3月に発行し、第5号となる。これにより、各教員の専門分野における研究以外に、各開講科目の授業研究を促進することになり、研究と教育の有機的な展開が図られた。今後も本WGは、教員相互の授業研究に役立てることを目的に、10年先の再課程認定を見据えながら、本誌を作成しつつ、教員の研究業績・教育業績の積み上げを促進していく。また松浦自身の講義の在り方の省察や学生の学びが今以上に活性化するための教授法研究として取り組んでいくつもりである。
8. 尚、高校時代に学習意欲や学習方法、学習習慣が確立されていない学生が増加しているため、本学での学びの入り口である「入学前教育」の在り方を再度工夫する必要がある。2018年度よりこれらを鑑み、座学のみではなく、表現系の（造形表現・音楽表現・リトミック・介護実習）の演習を12月期・1月期に導入しているのは、効果的であった。座学では経験できない学びの楽しさを実感しているようでもあり、教務委員にとっては、学生の普段の姿を垣間見ることが可能となったため、入学後の学習準備（クラス編成等も含め）に具体的な工夫を企てることが可能となった。ただし2021年度より入試体制の変更から12月期に次年度の入学予定者が不確定となったため、開催は1月より3回開催の構成に変更した。2022年度入学生向けのプログラムにおいては、2月期・3月期の入学前教育の在り方を模索していく。

鈴木敏彦教授

【研究課題】

1. 福祉サービス利用者（子ども、障がい者、高齢者等）の権利擁護とソーシャルワークに関する研究（虐待防止、意思決定支援、差別解消、合理的配慮等）
2. 障がい児・者相談支援（障がいケアマネジメント、障がいソーシャルワーク、地域共生社会の実現に向けた社会資源開発・ネットワーク構築等）に関する研究
3. 戦前期「経済的保護」に関する史的研究（不良住宅地区改良法を中心に）

【教育課題】

1. 保育士・幼稚園教諭養成課程における「共生」「人権（子どもの権利）」を基軸とし「SDGs（Sustainable Development Goals）」に対応する社会福祉・ソーシャルワーク教育
2. 保育士・幼稚園教諭養成課程における社会福祉・ソーシャルワーク教育（「保育ソーシャルワーク」「医療的ケア児支援」）
3. 保育士・幼稚園教諭養成課程における高大連携
4. 保育士・幼稚園教諭養成課程における障がいのある学生に対する支援

【学会参加予定】

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、社会保障法学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、成年後見法学会、日本高齢者虐待防止学会、日本障害者虐待防止学会 ほか

井 狩 芳 子 教 授

【研究課題】

1. SDGs の視点を踏まえた、「保育内容『健康』」と「同領域 総合的指導法」の内容である、乳幼児の“発達・運動あそび・生活リズム・基本的生活習慣”の獲得促進やその指導法について。さらに、その視点を踏まえた学生支援の在り方について（継続）。
2. 現代生活に対応した、乳幼児(保護者含)の健康保障／運動あそびの普及・検証(理論と実際) 関係団体の親子様の協力を得ながら、文部科学省が提示した「幼児期運動指針」に基づいた啓蒙活動を実施(継続) *協力団体(予定): 冒険遊び場・保育所・幼稚園等

【教育課題】

1. 保育内容「健康」:
 - ア、2021 年度に進められた IT 環境の活用について、教科書をベースにした調べ学習の機会をふやし、学びの導入として自らの健康に関する意識喚起を促し学生自身の気付きの開発に努める
 - イ、到達目標をスリム化し、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫をする
 - ウ、各回授業開始時と終了時のキーワード確認・記入式のレジメの配布とその提出を重ねながら、学生の知識の定着をはかる
 - エ、ポートフォリオを活用した学びの連動をはかる
 - オ、保育者の視点に気付く機会とする
2. 保育内容の総合的指導法「健康」: 当該科目の目的が、保育内容『健康』(1 年生前期設置科目)に続く、現場の指導法を念頭に設置された科目であることを踏まえ、「ヒトが育ち、生きていくために、なぜ乳幼児期の“健康／身体活動(あそび)”が必要不可欠なのか」について、実践や指導法を通して学びの定着をはかる
 - ア、「保育現場における健康／あそびの援助」を実際におこない、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に健康／あそびの指導が出来る力の習得」を目指し、「実践と理論に強い保育者」を育てる
 - イ、105 分間の授業時間を十分に活かし、授業構成の前半は、前期の学びを指導法に結びつけて深掘りし、後半には、あそびや食育の年間プログラム作成もおこなう。また、簡単なあそび課題を多数体験し、それを達成することで自己肯定観獲得を促す
 - ウ、幼児期運動指針(文部科学省)の内容も取り入れて、“学生自身が「からだでわかる」”授業の展開に努める
 - エ、今年度(分散授業)の経験を活かし、社会情勢にあった最善の展開に努める
3. 実習指導/グループ担任:
 - ア、日常生活に対し困難を抱く学生が増加する中、引き続き学生の状況と気持ちを汲み、学生の小さな気付きを積極的に評価し自己肯定観を高める
 - イ、現代社会の情勢把握とともに若い世代の文化に興味をもつ
 - ウ、自身のストレスのコントロール術を習得し、ひいては、その術を学生と共有する
 - エ、1 年生終了頃には、概ね学生らしい自覚を持った日々の生活が出来るような支援に努める。そして、新 1 年生へのサポーターとして新 2 年生の力を十分に活用し、2 年生の一層の力も育てながら、その力を 1 年生の成長の一助とする。困難な社会状況下、“実習の

合同授業/グループ活動/礼拝”などの他者との共有時間を通し、本学への帰属意識や大人になる心の準備へのサポートに努める

*2019年度以降、授業受講のメンバーを「組」による構成としたが、その中には偶発的に退学や欠席が多くみられる組もみられるため、是正を目指し教職員との連携を模索する

4. 幼少年体育指導士会の養成プログラムの勉強会の立案

【主な社会活動】

1. 「小児保健研究（日本小児保健学会発行雑誌）」投稿論文査読委員
2. 「神奈川県相模原市青少年問題協議会」会長
3. 「神奈川県開成町子ども・子育て会議」委員
4. 「子どものからだと心連絡会議」全国委員／会計監査
5. 一般社団法人 幼少年体育指導士会 理事
6. 「社会福祉法人 歩育の会」 理事
7. 「NPO法人 子どもの居場所ネットワーク」 理事

【参加学会（予定）】

1. 日本保育学会（2022年5月）
2. 日本保育保健学会（2022年5月）
3. 日本小児保健学会（2022年6月）
4. 日本体育学会（2022年9月）
5. 子どものからだと心・全国研究会議（2022年12月）
6. 日本発育発達学会（2023年3月）

横 川 剛 毅 教授

【研究課題】

1. 優れた社会事業家についての人物研究

【教育課題】

1. より深い配慮が必要な子どもに寄り添うことができる保育者・支援者の養成
2. 障がいのある人への支援についての関心を喚起し、障がい関連福祉事業所への就職者者を増加させる。

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本キリスト教社会福祉学会

松 山 洋 平 教授

【研究課題】

1. 保育現場と連携して行う新たな実習教育・保育者養成のあり方
2. 保育の質向上を支える研修と保育者の変容の過程に関する研究
3. 保育者の子どもを理解することの深化についての研究

【教育課題】

1. 担当科目「保育内容・環境（指導法）」における、さらなるALの開発と内容の充実。
2. 担当科目との連携による実習教育さらなる充実を目指した取り組み。

3. サークル、自主ゼミ等、授業外学習を行う学生を支える取り組み。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会

【社会的活動】

1. Will とともに語ろう（和泉短期大学学生・卒業生研修会）
2. 荒川区保育園指定管理者候補者審査委員会委員
3. 荒川区子育て支援部指定管理者実績評価委員会委員
4. ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部評価委員
5. 川崎市認可保育所（株）ぶどうの実系列園 要望等解決審査委員（第三者委員）
6. キャリアアップ研修講師（相模原市・横浜市・認定こども園連絡協議会）
7. 預かり保育担当者研修講師（横浜市幼稚園協会）
8. 幼稚園教諭免許状更新講習講師（横浜市幼稚園協会）
9. 子どもと保育総合研究所所員（研究大会・セミナーなどの企画・運営・講師）
10. 大田区公立保育園公開保育研修講師
11. 足立区年齢別研修講師
12. 鉄道弘済会研修会講師

山本美貴子 教授

【研究課題】

1. 2020年度からのコロナ禍により担当表現系演習科目「保育内容 表現」「保育の総合指導法 音楽表現」は、分散対面授業を主として、夏季・春季集中講義を実施、数回分を課題提出とした。声・音・言葉・動き等により自分の感じたことを他者に現す・繋がる・呼応する、音楽でコミュニケーションすることを柱とする科目の特性により、例年とは異なる授業内容・授業方法を模索しているが、出来ないこと・かえって実を得ていることなど、学生の学びの姿は興味深い。2020年度からの継続研究・2021年度実習での学生の学びの研究を経て、さらに表現系科目の授業内容研究を継続する
2. 学生が実習先で声・音・言葉・動き・表情などにより子どもたちと音楽的にコミュニケーションする実際を観察研究を目指し、コロナの影響が収束に向かった頃に機会を探したい。
3. 養成校の進路支援の研究として、学生の就労意欲・保育スキルを高める内定後現場研修の在り方について、学生の心の状態、ピアノ課題の問題点等について、就職先実践現場との研究協力方法を模索することを含め、研究を深めたい

【教育課題】

1. 山本美貴子が2007年頃より担当する表現系科目の教育計画（半期科目「保育内容 表現」と、隔週通年科目「保育の総合指導法音楽表現」）は、2021年度から前期「保育内容表現」、後期「保育の総合的指導法 音楽表現」と改編され、主に理論と全体的な表現に関する科目の学びから、より音楽に特化した専門的・実践的保育方法の学びへとステップアップする流れを作ること、年間を通して表現系授業を毎週継続して行うことが可能となった。コロナ禍による特殊な内容ではあるが、2021年度授業実践を省察・検討し、双方の授業内容の往還性・連続性・差別化双方の視点から保育者の音楽性を育む「授業内容研究」を継続する。

2. 音楽教育全体の課題である「音楽を創る」をテーマに、学生が主体的に学ぶ創造的な表現活動（音楽や表現を創る活動）を主軸にして、個々の学生の知識と個性を生かした協働的、創造的、想像的な授業実践を目指す。ICT、ポータルフォリオなどの積極的活用により、引き続き学生の学習段階・学習成果の可視化を工夫したい。
3. コロナ禍での演習授業における音楽でのやりとり・創作活動・発表方法などについて、2020年度から2年間の経験を踏まえ、さらに吟味を重ねる。
4. 「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について
感染状況の悪化に伴い、2021年度は2020年度に増して、社会全体・教育内容としても、大勢で大きな声で歌う活動・練習に特に制限が求められた。そのため、2021年度は聖歌隊活動は休止、所属メンバー不在の状態となっている。
感染状況の改善に応じて、また2022年度後期 前島麻衣先生の復職の好機を捉えて、積極的な活動再開を計画したい。
5. 学生委員会・健康管理センター運営委員会等では、事務局・他委員会・ユニットと連携して、2020年度から継続するコロナ禍での本学の感染状況の分析と積極的な感染予防対策の実施、自宅療養学生の相談支援、学生の主体的な学生生活支援、進路支援等についての省察・検討・実施・改善に務める。
6. 保育・福祉従事者の養成校として、単に感染対策の呼び掛けや実施に留まらず、学生の将来の仕事に生きる視点・意識・知識・経験の獲得につながる方法を目指したい
7. 学生サポートブックの刷新を経て、学生への生活支援・指導、進路支援・指導に有益なプログラム・ルール・サポート方法などへの効果を検討し、改善を継続する。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本音楽教育学会

矢野 由佳子 准教授

【研究課題】

1. 保育者の情緒体験とキャリア意識に関する調査研究
2. 乳幼児の発達と心理臨床の実践

【教育課題】

1. 子どもや保護者の心に深い理解を持ち、カウンセリングマインドをもって接する保育者の育成
2. 心身の健康管理に留意できる保育者の育成

【学会参加予定】

日本発達心理学会 日本心理臨床学会 他

中野 陽子 准教授

【研究課題】

1. 知的障害者の支援をするソーシャルワーカーの専門性に関する研究
2. 障害者の権利擁護に関する研究

【教育課題】

1. 人権を護り、多様性を尊重し、共生社会の実現ができる保育者の養成
2. 特別な配慮が必要な子どもの支援ができる保育者の養成
3. 障害者施設における支援の魅力を伝え、就職先の選択肢の一つになるようにしていく
4. 社会福祉士や特別支援学校教諭免許状取得に向けた編入学を推奨していく

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会（オンラインの可能性）

【社会的活動】

1. 県立さがみ緑風園第三者委員（2023年閉園の事情があり任期の都合上留任中）

久保小枝子 准教授**【研究課題】**

1. 絵本やおもちゃが乳幼児の発達に与える影響を継続して研究
2. 青年期における宗教心の芽生えとその育成を調査・研究
3. 実習の事前学習と事後学習の充実のための調査・研究
4. 子育てひろば「はっぴい」「すまいりい」の地域支援に主体的に参加する学生の保育の専門性の向上についての研究
5. 現職教育の育成-保育の質の向上を目指して-
6. 諸外国の保育についての研究

【教育課題】

1. 学生が保育職への意識を高め、主体的に学ぶための教育方法を探る。
2. 「保育内容 言葉」、「保育内容の総合的指導法 言葉」、「保育内容総論」「キリスト教保育」「保育・教職実践演習」の講義や演習を充実させるために、学生が保育現場の具体的な事例から学べるように工夫する。理論と実践の統合を目指す講義、演習を行えるように努める。
3. 学生の学習環境についてアンケートや聞き取りを行い、より質の高い充実した環境整備を学生と共に探る。
4. 地域の子育て支援プログラム「はっぴい」「すまいりい」に参加する学生に実践的な学びの場を提供する。学生が計画案作成、実践及びその振り返りを通して、主体的に学ぶ機会を支援する。おもちゃや造形活動など学生と教材研究を行い、保育技術習得の支援に努める。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 子どものための芸術と遊びフォーラム

【社会的活動】

1. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』コメントの会委員
2. キリスト教保育連盟『キリスト教保育』『実践からの学び』執筆
3. 和泉短期大学子育て支援プログラム（はっぴい・すまいりい）リーダー企画・運営
4. 横浜YMCA県内14園ある保育園のスーパーバイザー
5. 横浜市立保育所の民間移管にかかる法人選考委員会委員

6. 相模原市保育士キャリアアップ研修講師
7. 相模原市私立・認定こども園協会研究推進部研修会「子どもと共に育つ保育者」講師
(年9回)
8. こひつじ文庫アドバイザー
9. さがまちカレッジ講座講師
10. 大学・短期大学基準協会認証評価 評価員

八 代 陽 子 准教授

【研究課題】

1. 乳児理解

①保育者の乳児理解の視点の一考察～保育ドキュメンテーションに着目して～

保育ドキュメンテーションの切り取りに場面に着目し、保育者の乳児理解の視点について探る。

②保育者の乳児理解の視点の一考察～一日の生活場面に着目して～

保育ドキュメンテーション・観察・インタビューを通して、乳児の一日の生活場面で、保育者が着目する視点から、保育者の乳児理解について探る。

③乳児とモノのかかわりの一考察～乳児にとってのモノの意味に着目して～

これらのことを明らかにすることにより、乳児保育の質の向上及び保育者養成校教育授業の「乳児保育」のより良い在り方の示唆を得る。

2. ミドルリーダーの後輩指導に関する研究

インタビュー調査を通して、ミドルリーダーにとっての後輩指導の意味について探る。

これらのことを明らかにすることにより、ミドルリーダーの育成及び、保育の質の向上の示唆を得る。

【教育課題】

1. ◇アンケート◇『教職研究』2022年度

子ども理解を深める授業の検討 その2 ―記録・計画を使用した保育カンファレンス授業に着目して―

授業「子ども理解と援助」の中の「保育カンファレンス」に着目して、アンケート・授業レポート等から、リモート授業と対面授業の比較をしながら「子ども理解」を深める授業実践の評価、改善、計画を行う。

2. 子ども理解を深める授業の検討 その3―「防災に関する安全教育」における教材研究

授業「子どもの健康と安全」の単元「防災・安全教育」のに着目して、アンケート・授業レポート等から、教材に視点を当てたの評価、改善、計画を行う。

【所属学会等】

1. 2008年11月 日本医療保育学会
2. 2011年4月 日本保育学会
3. 2012年7月 日本乳幼児教育学会
4. 2015年7月 日本保育保健協議会
5. 2016年9月 日本保育者養成教育学会

坂 井 悠 佳 准教授・チャプレン

【研究課題】

1. キリスト教学校における伝道に関する研究
2. 日本におけるアメリカ神学の受容と教会形成に関する研究（明治期の日本組合基督教会を主たる対象とする）
3. 日本のキリスト教会の背景としてのアメリカ神学、教会史に関する研究（会衆派を中心とする）

【教育課題】

1. チャペルアワーにおいて、イエス・キリストの福音を正しく伝え、建学の精神であるキリスト教信仰を指し示すことにより、学生が本学での学びの基盤を形成できるように努める。
2. キリスト教科目の授業において、聖書の福音、建学の精神を教導することを通し、学生がキリスト教信仰に対して主体的に向き合い、神から与えられた自らの使命を問うように促し、保育・福祉のよき担い手の養成に資する。

【学会参加予定】

1. キリスト教史学会
2. 日本基督教学会
3. 日本思想史学会
4. 横浜プロテスタント史研究会
5. 日本近代史研究会

【社会的活動】

1. 日本基督教団教務教師
2. 明治学院大学キリスト教研究所協力研究員
3. 学校法人フェリス女学院評議員

中 安 恆 太 准教授

【研究課題】

「小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）の意義と課題」

近年、日本においては家庭養護（里親やファミリーホーム等）の促進が図られているが、ファミリーホームは、第2種社会福祉事業のため施設的な側面があり、里親と比較すると公的支援の活用が限られている。そのため、養育者の負担が増えることが予測されるが、インタビュー調査等の詳細なデータは限られている。養育者の考えるファミリーホーム養育の意義と課題を整理し、必要な支援を考察する。

【教育課題】

担当科目では、学生が施設実習や現場実践に役立てる知識・技術・倫理が得られよう分かりやすい授業を展開する。具体的には、テキストに書かれている内容を落とし込むための資料提供やDVD視聴、グループワーク等を行う。また、虐待やヤングケアラー等、子どもやその家庭を取り巻く環境が複雑化しているため、その問題解決のために必要な支援を探求する視点を養う。

【社会的活動】

1. 一般社団法人全国保育士養成協議会 保育士試験委員会 委員

2. 相模原市子どもの権利相談室 救済委員
3. 相模原市社会福祉審議会 委員
4. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 児童部会 部会長
5. 相模原市社会福祉審議会 児童福祉専門分科会 児童虐待検証部会 委員
6. 社会福祉法人ル・プリくるみ会事業本部 オンブズマン
7. 社会福祉法人みのり会 監事
8. 東京都養育里親登録

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本子ども家庭福祉学会
3. 日本子ども虐待防止学会

吉 田 久仁子 専任講師

【研究課題】

1. キリスト教保育の担い手としての理事会に関する研究
2. 保育者の人間関係についての研究-子ども・保護者・保育者-
3. 新卒保育者の職場定着について、新卒保育者と採用側のそれぞれの立場からの聞き取り調査・研究
4. 厚生省事務官として玉川保育専門学院開設に関わり、後に和泉短期大学教授となった副島ハマと和泉短期大学創設時から保育原理を担当したドイツ人宣教師であるゲルトルート・エリザベート・キュックリヒ教授の保育思想と関係性が戦後日本の保育に与えた影響に関する研究

【教育課題】

1. 東日本大震災・原発事故の経験を通して、保育者のあるべき姿について学生と共に考える。
2. 保育現場の映像やエピソードを交えて、保育の理論と実践が結びつく講義を展開し、学生自身も保育を語れるように演習を積み重ねる努力をする。
3. 学生が実習園だけではなく、多くの保育現場に触れられるよう Web 会議システムを活用しながら園長や保育者とディスカッションできるような授業展開を考えていきたい。

【社会的活動】

1. ホープツーリズム教育研修企画
東日本大震災と原発事故後の帰還困難地域や避難指示解除後の地域など、被災地の生の現場を見るとともに復興に取り組む様々な立場の人たちの話を聞き考える。
2. いずみ祭にて福島県産品の紹介
3. 小規模保育園と保育園でのフィールドワーク

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本キリスト教教育学会
3. 日本子ども虐待防止学会
4. 地域安全学会

星 早 織 専任講師

【研究課題】

1. 乳児保育の質の向上に関する研究
2. 保育者養成における学生の成長プロセスに関する研究
3. 子育て支援の充実に関する研究

【教育課題】

1. 担当教科において、教材及び保育現場での事例を通して学生が自ら考え、また他者と協力しながら知見を広げられるような演習授業を設定する。
2. 学生自身が保育を客観的に捉え、評価・反省ができる保育者となれるよう記録する力を身につけられる授業を構成する。
3. ICT化が進む保育現場の現状に合わせ、実践現場で生きるスキルを身につけられるような授業内容を目指す。
4. グループ担任として、学生が入学から卒業までの見通しを持ち、充実した学生生活が送れるようグループ運営に努める。

【学会参加予定】

1. 日本保育学会
2. 日本乳幼児教育学会
3. 日本保育者養成教育学会
4. 日本社会福祉学会

安 西 美 咲 助教

【研究課題】

1. ソーシャルワーク実践における意思決定支援に関する研究
2. ソーシャルワークにおける権利擁護と成年後見に関する研究

【教育課題】

1. 実習サポートにおいて、児童福祉の専門職を目指す学生が充実した実習での学びを得られるよう、学生一人ひとりと向き合いながらサポートに努める。
2. 保育職を目指す学生が、ソーシャルワークの視点（人権や価値観、多様性の尊重等）や、コミュニティソーシャルワーク（子どもや保護者の生活の基盤となる“地域”（社会資源）との連携 等）の視点に関心が持てるよう努める。

【学会参加予定】

1. 日本社会福祉学会
2. 日本ソーシャルワーク学会
3. 日本地域福祉学会

前 島 麻 衣 助手

【研究課題】

1. 保育現場での音・音楽のあり方について
保育現場の音のあり方について研究を深めていく
2. 幼児の音楽表現を支える保育者について
学生の授業と実習での経験から、幼児の音楽表現を支える保育者に必要な事から、学生に必

要な学びを考えていく

3. 養成校で学ぶ学生の音楽について

「学生の音楽歴や音楽に関する調査研究」

【教育課題】

1. 「子どもと音楽」の授業内容と方法について
2. 学生の実習準備の支援方法について
3. 聖歌隊の取り組みについて

専攻科介護福祉専攻

佐藤 美紀 准教授

【研究活動】

1. 実習の学びにおける認知症高齢者へ理解の変容について
2. 地域における認知症周知活動の実態調査
3. 児童福祉学科における認知症の学びから見えてくる学びの要素

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉学会
2. 認知症ケア学会

佐久間 志保子 特任教授

【研究活動】

1. 介護人材に関する取り組み
2. 高齢者施設における感染症対策

【学会参加予定】

1. 日本介護福祉教育学会
2. 日本認知症ケア学会

中野 志津江 特任助教

【研究課題】

1. 保育職を目指す学生を対象とした死生観についての研究

【教育課題】

1. 医療職との連携のもとに医療的ケアを安全に適切に行う為の知識と技能を習得できるよう学生目線で授業の工夫を図る。
2. ライフサイクルの各期の身体、心理、社会的特徴を踏まえた上で、老化に伴う変化と高齢者に多い疾病や障害について理解し、日常生活への影響についてイメージできる授業の工夫を図る。
3. 人体の構造や機能、こころやからだのしくみなど基礎的な知識を理解した上で、加齢による身体機能や心理的、精神的機能の低下及び障害が日常生活動作や暮らし方にどのように影響するのかを考え、援助に結びつけて理解できるよう努める。
また、イメージしやすい資料等の工夫を図る。

4. 死にゆく人とその家族に対して死の受容過程を学び、様々な死生観を通して、支援のあり方やグリーフケアについて考える。また、お互い学び合い、対象の尊厳を尊重する態度やコミュニケーションについて自ら気づけるよう努める。
5. 学生がより質の高い充実した実習ができるよう実習準備を行い、実習環境を調整し、学生の不安の軽減に努め目標の到達に向けて主体的に学べるよう学生と共に考え、支援する

【学会参加予定】

1. 日本リハビリテーション看護学会
2. 日本看護学会
3. 日本臨床死生学会

【社会的活動】

1. 学校法人 鶴嶺学園 評議員

6. 委員会活動

教務委員会（教務部長 松浦 浩樹）

教務委員会は、教務委員会規則により（1）教育課程に関する事項、（2）試験に関する事項、（3）学籍の異動に関する事項、（4）その他、教務に関することを所掌事項とする。左記の各事項のうち、2022年度は、COVID-19の感染に伴い2021年度内に実施できなかった「和泉短期大学第2次中期計画」を踏まえ、下記の点を重点的に取り組むこととする。なお、2022年度の授業運営も引き続きCOVID-19の感染状況を鑑みながら、安心・安全対策に柔軟に対応しながら、教育内容の質の担保に努める。以下の計画は関係する他の委員会等との十分な調整等を行い実施する。

(1) 教育体制の充実

① 2021年度に3つのポリシーの明確化と共に「5つのコンピテンシー(ディプロマサブリ)」「和泉の10の力」をルーブリックの中で一体的に総括した。これを踏まえ学習成果の可視化(ICT化)を具体化する。

2021年度新たに再整備したカリキュラムツリー(専門科目系統ナンバリング)とアセスメントプランを通じて、2022年度は本学における学びの道筋と可視化を具現化し、学生が自覚的・主体的に学習に取り組めるような態勢を整える。

② 学習環境の整備と組織的運営の構造整備・改革

学習支援環境の充実を図るため、アセスメントテストを2020年度に導入した。学生の学習環境の実態を把握し、そのアセスメント結果を授業担当者別かつアドバイザー別に結果を開示し、授業運営の手立て【往還型の授業への取り組み】とするよう促進する。

また、離学希望者の学習生活での躓きの要因を探り、具体的な手立てを講じる。

③ 教育内容の体系化の充実

(上記ルーブリックに沿ったシラバス作成要綱の更新と運用)

④ 新たな教育方法の導入に向けた継続的な取り組み

・1時限の授業時間15分拡大(105分授業)／前期・後期、各期13週 2021年度開始に伴う省察
アクティブラーニング(能動的学習・課題解決型学習(PBL))等の促進
授業担当者に対する往還型学習の促進 GoogleClassroomへの転換と活用
実習実施期間の弾力的運用(COVID-19感染拡大予防対策)

・アンケート調査の開始(2019年度)と実績分析

・ラーニングセンターwillの運営管理

・非常勤講師のオフィスアワーの明確化

(オフィスアワーの明確化と非常勤講師の学生対応の再評価)

・COVID-19感染への徹底した防止対策に基づく教育方法の促進
分散登校・対面授業の実施に対応する授業方法の提示↓

有事の場合のオンラインのみの授業配信(在宅配信・在宅受信型授業)の模索

・ICT推進委員会との連携と教育内容の質の担保

(オンライン授業(GoogleClassroom・Zoom・YouTubeアプリケーション)の有効活用)

⑤ 実習教育を中心としたサービスラーニングのあり方の検討

実習教育との協働を図るため、実習サポート委員会と連携する

⑥ハード面における環境整備の提案

- ・ COVID-19 感染拡大予防に対応した教室環境整備
- ・ 教室教育用機器備品についての整備の充実、及び学生ホールや食堂の学習室（カフェ化）
- ・ IT 教育環境の整備（学生ホール・及び IT 関連授業の教室環境整備）
- ・ 上記①～⑥を踏まえ、学習効果の可視化を目的に、学生の学習、教員の授業効果の ICT 化を実現する。

⑦障がい、その他の特別な配慮を要する学生への支援のあり方の検討

（「障がいのある学生等修学支援委員会」との協働）

- ・ 2021 年度生の調査 2021 年 2 月 12 日
2021 年度生に関しては、2020 年度第 3 回入学前教育（2 月）時点で 80 名調査書未提出
→必要に応じてクラス編成時に配慮済
- ・ 2022 年度生に関しては、2 月の第 1 回入学前教育で提示（第 2 回入学前教育時提出予定）

⑧キャリアデザインセンター、ラーニングセンターwill、及び PC 教室（212）の各目的別支援員の配属と職務内容の確認（特に 2022 年度学習効果の可視化に伴う新システム導入への転換とスムーズな運営のための人材確保）

⑨「職業訓練委託生」のクラス配置と学習支援

- ・ 学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、全教員に周知を図る。

⑩「社会人学生」のクラス配置と学習支援

- ・ 学習支援の実態について、具体的に省察したことがらについて、全教員に周知を図る。

⑪研究活動の充実

教員の学務への対応が煩雑になり、研究活動の時間確保が困難になりつつあることは、継続的な課題となっている。また 2021 年度は前年度に続き COVID-19 感染に伴う緊急事態宣言の影響で、ワクチン接種を学生に促進するために 1 週間の休暇を設けた関係で学事が大幅にずれ込んだが、2021 年度より学事に余裕を持たせるための 105 分 13 回授業の開始が功を奏し、後期授業を完了させることができる日程を確保できた。2022 年度は働き方改革に伴い、研究のための一定の期間と時間が確保されるよう、学事を工夫する。

また COVID-19 の感染状況にかかわらず、新たな教育（授業）方法【ICT 化】に向けた取り組みの実践的授業研究を促進する。特に 2020 年度より需要の高まったオンライン授業に関する教育の質的研究を促していく（『教職研究』へ）

研究紀要・教職研究への投稿、及び学会参加・発表、共同研究等へ促進を図ると共に、研究調査倫理（私的財産、知的財産、個人情報保護）の徹底。

⑫全教員打ち合わせ会の充実

2022 年度の本学の教育改革（特に「105 分授業開始」1 時限の授業時間 15 分拡大／前期・後期、各期 13 週）への省察を促し、アクティブラーニングをさらに充実させるために、2022 年度の打ち合わせ会を 2022 年 3 月中に行う。

⑬市内高校校長との教育研究会

学内の教育体制は高く評価を受けてはいるが、2021 年度はやむなく（COVID-19 ののため）中止とした。これまでの実施においては、本学の教育への姿勢に限らず、「教育」へのコンセンサスを図る良い機会を設けることができているため、2022 年度はアドミッションオフィスと協働しながら、上記①～⑥の共有や入学前教育の質を高めるために協議を行うとともに、

「保育職」への社会的理解を高めていくための会となるようにする。

⑭ティーチング・ポートフォリオ、及び学習の可視化システムの構築

アクティブ・ラーニングの実際、課題内容の共有・調整。

(2) 学びの組織的支援

①ICT化への取り組みと共にポートフォリオの更新と取り組み内容・方法の工夫

オンライン授業促進ワーキンググループ・ポートフォリオワーキンググループとの協働

また「オンライン授業促進ワーキンググループ」を前身として、新たに「メディアサポートセンター」に改組改名し、急務となるオンライン、オンタイム授業の促進サポートのみならず、ICT化に伴う全ての業務を一本化し組織的総合的なサポートが可能な体制を構築する。

②保育者養成(幼稚園教諭・保育士共に)のカリキュラムについて、特に現場実習中止に備えて、

学内実習教育を再構築し、保育者養成の質を担保する。

③中途退学(離学者)防止に向けた取り組みの充実(「離学者検討委員会」との協働)

④キャリアデザインセンター、ラーニングセンターwill 支援者を中心とする「保育者を目指す

学びへの支援」に関するカリキュラムの検討(キャリアデザインIⅡへの授業化。リメディアル教育を含む)と共に2021年度アセスメントテストによって明らかになった「基礎学力」の向上を課題におき、具体的な学習支援策を検討していく。(「学びのマネジメントWG」との協働)

⑤入学前教育の内容更新と充実(方法・内容等の再検討)

入試制度の変更によって12月期の入学前教育の開催が不可能となったため、1月からの3回構成でカリキュラムを工夫し構築するが、1月～3月まで4回の開催も視野に入れて検討する。

⑥学生アンケートの実施による学生の意識、学習の状況等の情報収集と教育実践の向上に向けた反映

また、学習成果について、学生が理解しやすい可視化のあり方を探る。

⑦学びの組織的支援充実のための構造整備(教務委員会下部組織の整備と確認)

⑧学習時間の保障を軸に、シラバス作成要項(方針)を綿密に作成し、講義・演習の組織的な運用を目指す。

⑨初年次教育(大学におけるスタートカリキュラム)のあり方を模索する(下記(4)-(2)(6)を含む)。

(3) 学習の評価

①アセスメントプラン策定に向けた検討

②学習ルーブリックに関する検討(2020年度:試験的運用 2021年度:完成年度)

③自主的な学習の評価に関する検討(ルーブリックポリシー<仮名>の検討)

④成績評価の厳格な運用の推進

⑤学習成果のフィードバックのあり方に関する検討

(4) 連携活動

①学校間連携の充実(保育士養成施設協議会、日本社会福祉教育学校連盟、キリスト教保育連盟 等)

②高大連携プログラムの充実(聴講生受け入れ、市内高校長との教育研究会開催 等)

③産官学連携のあり方の検討(日本保育協会神奈川県支部、相模原市幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、相模原市高齢者福祉施設協議会 等)

④地域連携のあり方の検討(地域連携推進センター委員会と協働)

⑤専門職団体等との連携の充実(キリスト教保育連盟、日本保育協会神奈川県支部、相模原市

幼稚園・認定こども園協会、相模原市保育連絡協議会、神奈川県保育士会、神奈川県介護福祉士会 等との協働によるキャリアパス<キャリアアップ講習>の具体的構築 下記(5)－①と関連)

- ⑥保証人との連携の充実(保証人会の開催、保証人への成績通知 等、「学生委員会」との連携)
- ⑦保育実習指導者研修への参入(全国保育士養成協議会、横浜市、相模原市保育課)
- (5) 生涯教育
 - ①リカレント教育の縮小と地域への講師貢献の促進(リカレント教育のあり方に関する再検討、卒業生調査の実施、保育士・幼稚園教諭特例制度に係る講習会の開催、現職研修への講師派遣等) IR 委員会、地域連携推進委員会と協働
 - ②大学公開講座の充実(相模原市との共催 等)
- (6) キャリア教育の推進
 - ①キャリア教育の推進(キャリアデザインセンター、ポートフォリオ、保育・福祉専門職のキャリア教育のあり方の検討 等、「学生委員会」「学びのマネージメントWG」との協働)
 - ②資格取得支援(保育士、幼稚園教諭免許、おもちゃインストラクター、その他) 喀痰吸引等の登録研修機関を設立(50時間授業)
(児童福祉学科及び専攻科の学生にとどまらず、現職保育者の研修機能も併設する)
 - ③「保育ふれ合い体験(保育園)」・「福祉ふれ合い体験」 ・「幼稚園保育体験」のカリキュラム化と体験の充実化
 - ④休日月曜授業日の「ホームカミング」としての積極的活用の検討
- (7) FD 活動の充実
 - ①自己点検・評価報告書の作成(「自己点検・評価委員会」との協働)
 - ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方の検討(ICT 教育の内容と方法の検討含む)
 - ③学生による授業評価の活用方法の検討(回数、時期、方法、結果の提示方法)
 - ④教員懇談会・教職員懇談会の開催
 - ⑤全教員参加のFD 研修会開催(「ファカルティディベロップメント委員会」との協働)
 - ⑥学生FD 委員会活動への支援
 - ⑦アセスメントテストの活用法
- (8) 教員の交流と研究活動の支援
 - ①全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の充実
 - ②教員の研究活動の推進
(研究費の活用、外部研究資金調達への支援 研究日及び研究期間の保障等)
 - ③文部科学省等による外部資金獲得に向けた検討
- (9) 情報公開・情報収集の推進
 - ①自己点検・評価報告書の公表(「自己点検・評価委員会」との協働)
 - ②教員情報の公表(公表方法・公表項目の検討 等)
 - ③保育・幼児教育関係の動向に関する情報収集(「IR 委員会」との協働)
 - ④保育士養成課程/幼稚園教諭養成課程の動向に関する情報収集(「IR 委員会」との協働)
- (10) 『教職課程』
講義・演習の質の向上と教職課程の科目に準ずる研究業績の保存・蓄積を兼ね、論集『教職研究』を出版。主に担当科目の授業研究等に関する研究結果を掲載。

(11)「授業時間の105分化に伴うアクティブラーニングの促進」と「授業開講時期の短縮」への工夫を促進

養成カリキュラムが過密になり、長期休暇が短くなっていることを鑑み、1回分の授業を15分延長すると共に、90×15回+テスト(1350分+テスト)⇒105×12回+13回目90分(まとめ・テスト)に変換することで、開講期間を前期・後期で各2週間ずつ短縮でき、2021年度から実施。そのため、2022年度は授業内容と進度の省察を促進し授業の質的改善・向上に努める。

(12) COVID-19感染拡大予防に対する2022年度授業運営の見通し

COVID-19感染拡大状況やワクチン接種率(ブースタ接種)に依拠するが、少なくとも2022年度の授業運営は、対面授業の継続する中で、再度分散登校・オンライン授業の実施が見込まれる。これに基づき、学びのマネジメントWGによる新システム導入後の具体的な活用のあり方を早期に示し、またZoomのアカウントを2023年度までは保持するよう学校側に求め、これらの2システムのコロナ禍を超越した有機的な応用のあり方(ICT化)を模索していく。

2022年度授業運営は、学事関連委員会(主に学生委員会・実習サポート委員会)と連携、協議を図りながら、学内運営協議会・教授会の承認をその都度得ながら、実施していくものとする。

学生委員会(学生部長 山本 美貴子)

1. 学生生活の支援に関する業務

(1) 学生への教育内容・連絡事項の周知に関する業務

- ① 学生サポートブックの編纂
- ② 掲示板での周知
- ③ HP・GoogleClassroomでの配信

(2) アドバイザーによるグループ指導の支援に関する業務

- ① グループミーティングのスケジュール立案
- ② キャンパスライフアワーについて連絡・調整
- ③ 学生カードの受付・管理・個々の状況や指導内容の共有

(3) スクールバス利用に関する業務

- ① 利用マナーの向上を目的にスクールバス利用登録制度を実施
- ② 快適な車内環境に関する連絡・調整
- ③ 学生との交流に関する支援(卒業時4名へのお礼状の作成など)

2. 学生の健康に関する業務・・・健康管理センター運営委員会・障がいのある学生等修学支援委員会

(1) 健康管理センターに関する業務

- ① 保健室の利用に関する連絡・調整・記録の作成
- ② 学生相談室の利用に関する連絡・調整・記録の作成
- ③ 学生の利用ルールの周知
- ④ グループアドバイザー・各委員会との連携(入学時健康状況アンケート特記事項共有など)
- ⑤ 健康教育の立案・調整・実施

(2) 健康診断に関する業務

- ① 学事予定における日程調整

- ②担当病院との連絡・調整・支援
- ③各委員会・ユニットとの連携
- ④学生への当日の手順・ルールなどの周知
- ⑤健康診断結果の配布・調整
- (3) 普通救命講習Ⅲに関する業務
 - ①委託先との日程調整・連絡・支援
 - ②学生への周知・受講に関する支援
- (4) 障がいのある学生等修学支援に関する業務
 - ①申請書の受付
 - ②障がいのある学生等修学支援委員会の召集（日程調整・連絡）
 - ③申請内容・支援内容の検討
 - ④教務委員会・グループアドバイザーとの連携（依頼書の作成・情報の提供）

3. 新型コロナウイルス感染症に関する業務

- (1) 新型コロナウイルス感染症対策に関する業務
 - ①新型コロナウイルス感染症の情報収集
 - ②新型コロナウイルス感染症に関する学内のルール・フローチャートなどの作成・周知
 - ③新型コロナウイルス感染症に関する情報の周知（HP・GoogoeClassroom）
 - ④感染症対策のための学内の環境整備の検討・周知
 - ⑤ワクチン接種に関する業務（情報収集・学生の状況調査・周知など）
 - ⑥体調不良・自宅療養学生の相談支援（電話・メールなど）と情報共有
- (2) 体調に変化がある学生に関する業務
 - ①毎日の体調不良の学生の連絡窓口・相談・指導
 - ②本学教職員、特別対策委員会・危機管理委員会などへの情報提供・連携
 - ③感染者発生時の行政などへの報告・HPでの情報公開

4. 進路支援に関する業務・・・就職委員会

- (1) 授業「キャリアデザイン」に関する業務
 - ①年間スケジュールの立案・教務委員会との連携（一般教養試験対策講座など）
 - ②学事における日程調整
 - ③委託先への依頼・日程内容調整
 - ④教室・担当者の決定・周知
 - ⑤提出レポートの管理・アドバイザーとの連携
- (2) 就職支援に関する業務
 - ①学生への進路に関するルールの周知（サポートブック・キャリアデザイン）
 - ②学生への求人情報の開示（進路支援センター内・サイト）
 - ③就職試験に関する支援・相談・指導
 - ④就職先へ募集要項受付の案内発送・ルールの周知
 - ⑤就職先との連携（訪問者の面談・情報提供・本学卒業生の就労状況に関する雇用先の満足度調査－旧卒業生の雇用に関する満足度調査など）

⑥就職懇談会の企画・調整・実施（キャリアデザイン）

(3) 就職先に関する業務

①雇用に関する満足度調査

②授業「キャリアデザインⅡ 就職懇談会」に関する依頼・調整・当日の支援

③就職先内定後研修の情報収集、養成校と就職先の連携方法や内容提言の検討

5. 学生の経済的支援に関する業務

(1) 奨学金に関する業務・・・奨学金委員会

①本学独自奨学金の情報提供・募集・選定・手続き支援

・和泉奨学金・眞鍋記念奨学金・児童福祉奨学金・学修奨励奨学金

・学生ボランティア活動奨励奨学金・愛のいずみ基金など

②外部奨学金の情報提供・募集・選定・手続き支援

・日本学生支援機構奨学金・篠原欣子記念財団奨学金・保育士修学資金貸付金

・生命保険協会介護福祉士就学資金・外語福祉士修学資金貸付金など

(2) 学生保険に関する業務

①学生教育研究災害傷害保険の手続き

②学生への情報提供・手続き支援

6. 学生の賞罰に関する業務

(1) 表彰に関する業務

・眞鍋記念賞・讃岐和家記念賞・中島武夫記念賞・伊藤忠利記念賞

・学長賞・ボランティア活動奨励賞

①各賞についての周知（学生サポートブック）

②教職員へ推薦者募集の周知・受付・資料作成

③受賞者の選定（教授会）・受賞者への連絡

④表彰式の日程調整・贈呈者へ依頼・実施

⑤情報の公開（HP・IZUMI NEWS など）

(2) 懲戒処分に関する業務

①事象発生の把握・情報収集

②危機管理委員会への情報提供・日程調整

③当該学生（保証人）への連絡・手続きの支援

④情報の公開の検討・調整・実施

7. 学友会・各種学生の委員会活動に関する業務

(1) 学友会活動への支援に関する業務

①新入生オリエンテーションでのガイダンス支援（前年度内の準備など）

②新入生勧誘企画の支援（サークル勧誘 DAY などの準備・機材貸与）

③学友会総会 5 月・12 月開催の支援

（日程調整、委任状・アンケート準備、予算案・活動計画・学生総会結果の周知）

④学校行事・企画に関する支援

(いずみ祭・講演会などの企画・連絡・調整・実施など)

⑤学生の大学教育活動と参加に関する企画・支援（感染症予防対策・教育的活動など）

⑥大学との意見交換の支援

（教育活動等への意見聴取・意見交換会などの支援）

⑦執行部の活動の支援

（各部門の担当決め・新年度学友会委員顔合わせなどの支援）

学友会運営の支援・後期1年生執行部決めの支援・総会準備）

⑧関係各所との関係作りの支援（バスドライバーなどへのお礼状作成）

⑨学友会予算の検討

⑩卒業記念品の検討

(2) 各種学生の委員会活動（SA委員会など）への支援

①学生の委員会・人数の検討・調整

②委員会と活動内容の周知（学生サポートブック）

③入学・進級時オリエンテーションでの周知

④グループアドバイザーへの情報提供・委員決定の依頼

⑤各委員会の活動支援

(3) オータムフェスタに関する業務

※新型コロナウイルス感染症対策によりいずみ祭の内容変更

①学事における日程調整

②年間の活動スケジュールの立案・調整

③実習サポート委員会との連携（授業プログラム・配布資料など）

④学友会・SA委員会との連携・活動支援

⑤外部各社・地域との連絡・相談などの支援（オータムギフト券など）

⑥父母会・後援会・同窓会との連携（オータムギフト券など）

⑦各ユニットとの連携（情報提供・日程調整・職務分掌・打ち合わせ会など）

⑧グループ活動費の支給・手続きの支援

(4) 卒業式・卒業パーティーに関する業務

①学事予定における日程調整

②教育・学習支援ユニットとの連携（式典との時間・内容調整など）

③各ユニットとの連携（庶務ユニットとのバス運行予定調整など）

④父母会との連携（ガウン貸し出し支援）

⑤卒業イベント委員会への情報提供・開催準備の支援

⑥父母会・後援会・同窓会・協力各社宛 招待状（感謝状）の作成・発送の支援

⑦外部業者への発注・調整の支援（食事・備品・暖房器具・音響・撮影・花束など）

⑧当日進行の支援（タイムテーブル・司会台本・企画・景品など）

⑨会場設営・片付けの支援（装飾・舞台用講義台・床シート・椅子など）

8. 課外活動に関する業務

(1) 課外サークル活動への支援に関する業務

①新型コロナウイルス感染症禍での活動時期・活動内容の検討・周知

- ②学友会サークル部門との連携・支援
- ③サークル活動申請の支援（活動申請書）
- ④学内活動に関する支援（日時・活動場所届など）
- ⑤サークルバスの運行に関する支援
- ⑥サークル活動日の警備員の依頼・調整
- ⑦サークル活動日の職員の勤務調整
- (2)学外活動に関する支援
 - ①予算申請（登録・交通費・引率など）
 - ②試合などの出場に関する支援（情報共有・登録・日程調整・交通費申請など）
 - ③当日参加のための支援（交通手段・引率・応援など）

9. 保証人・父母会・後援会に関する業務

- (1)保証人との連携に関する業務
 - ①保証人会の日程調整・周知・準備・運営
- (2)父母会との連携に関する業務
 - ①父母会総会の開催の支援（通知・記録など）
 - ②父母会報の発行の支援（データ・写真提供）
 - ③父母会活動の支援（業者との調整－植栽・観葉植物・卒業ガウン保管など）
- (3)後援会との連携に関する業務
 - ①後援会活動の支援（活動計画・活動予定・予算）
 - ②後援会総会開催の支援（日程調整・通知・会場準備・記録）
 - ③会報発行の支援（データ・写真提供）

10. 卒業生に関する業務

- (1)卒業生アンケートの実施（作成・発送・集計分析・HP公表）
 - 2020年度11月補助金申請設定期間5月～10月以降に実施
- (2)就職情報の提供（既卒者募集情報）
- (3)住所・氏名変更などの受付・登録

2022年度重点課題

- (1)新型コロナウイルス感染症拡大予防対策
- (2)健康管理センターの機能の充実
 - ①運用（学生指導・教育による予防の充実）
 - ②コロナ対応に関する役割分担（健康状況の記録・電話相談など）
 - ③保健室運営規程・学生相談室運営規程
 - ④保健室の環境整備計画の策定（男女別・感染症対策）
- (3)SA委員会の支援（役割分担・活動内容の検討）
- (4)コロナ禍での学友会・その他の委員会活動の支援
- (5)コロナ禍でのオータムフェスタの企画・実施・実習サポート委員会との連携
- (6)キャリアデザインⅡ授業の在り方・内容の検討、教務委員会との連携・調整

- (7) バスのマナーの向上・改善方法の検討
- (8) ステークホルダーとの連携強化。
- (9) 卒業生アンケート調査回答率UPのための対策実施・効果の検討
- (10) 就職先を対象として卒業生の就労状況に関する満足度調査（雇用満足度調査）の充実
- (11) アンケート実施に関する IR 委員会との連携

入試広報委員会（入試広報部長 松山 洋平）

1. 広報関係

- (1) 広報渉外ユニット職員の進化、専任職員 4 名（内兼務 1 名）体制
- (2) 学園報（IZUMI NEWS）の発行（4 回／年）
- (3) 入学案内冊子の作成及び充実のための検討
- (4) 神奈川県私立短期大学協会会長校及び学生募集・広報部会の活動
- (5) 進学相談会等（高校教員向け 3 回、市内高校保育・高大接続授業研究プログラム）
- (6) 入試対策の開催及び充実のための検討（イベント型と非対話型によるハイブリッド型戦略）
オープンキャンパス 13 回、ナイトオープンキャンパス 5 回、キャンパス見学会 5 回
LINE 個別相談随時、web 版キャンパスツアー、web 版体験授業など
- (7) オープンキャンパススタッフ学生及びワークスタディ学生の育成
- (8) 高等学校進路説明会（進学説明、オンライン含む・模擬授業）の開催及び充実のための検討
- (9) 公開講座（市民大学・さがまちカレッジ等）充実のための検討
- (10) 公開授業（市内小学校・中学校・高校[高大接続授業]）の開催及び充実のための検討
- (11) 和泉授業体験会（和泉プレカレッジ）の開催及び充実のための検討
- (12) ホームページ及び SNS（ツイッター、ライン、フェイスブック、インスタグラム）による
ニュース配信や充実のための検討
- (13) 2022 年度高等学校学習指導要領改正に伴うアドミッションポリシーの改正と公表(9月まで)
- (14) 教職員説明会の開催
- (15) 同窓会との交流
- (16) その他の広報活動の遂行

2. 入試関係

- (1) 2023 年度入試改革（7 つの改革：各入試の内容・方法の充実等）

① 総合型選抜入試の一部変更（詳細は下記③以降にて説明）

2022 年度入試の結果を踏まえてコース内容の変更する

4 つのコース

- ・「プレゼンテーションコース」を廃止し、「アサーションコース」を新設
- ・「キリスト教コース」を廃止し、学校選抜型選抜「キリスト教推薦」を新設（復活）
- ・「卒業生・家族コース」の新設
- ・「授業参加型コース」の「特別授業」を秋のみでなく冬（12 月、1 月）も開催

② 卒業生・家族推薦入試

2022 年度入試で家族関係を弾力化したのが、受験者数では、効果がなかった。

- ・入試時期の早期化を図る。11 月「学校推薦型入試（卒業生・在校生家族推薦）」から 9 月

「総合型選抜(卒業生・家族コース)」へ変更する。受験生が心理的に11月迄待てないため。9月からエントリー開始の総合型選抜の卒業生・家族コースに組み込む。

評定平均値を問わない入試にする。

※ 本学の伝統と校風を受け継ぎ、母校愛に富む卒業生の家族を対象に、スクールモットーである「愛と奉仕」を継承し、建学の精神に基づき、社会に貢献し活躍することが期待される人材を選抜する選考。

※ 減免は、この「総合型選抜の卒業生・家族コース」のみで5万円減免とする。

◆毎年度、卒業生11,000人に対して、8月にIZUMI NEWSと同窓会報と一緒に、卒業生・家族推薦制度のちらしを送付しているが、受験生が志望校を決める時期から遅れている。夏休み前の6月にIZUMI NEWSを送っている時期を早める。

③ キリスト教入試 総合型選抜から学校推薦型選抜へ (単独の入試の復活)

2022年度は、総合型選抜のコースとしたが低調である。

- ・キリスト教主義であるミッションスクールを前面に出し、キリスト者入試を単独で行い2021年度入試と同様に戻す。
- ・応募条件：キリスト者もしくはキリスト教学校教育同盟に加盟する高等学校の生徒。日本カトリック学校連合会を対象とする。
- ・提出書類：調査書・校長の推薦書・志望動機書。
- ・評定平均：問わない

◆5月にキリスト教学校教育同盟及び日本カトリック学校連合会、キリスト教年鑑に掲載されている近隣の教会宛てにキリスト者入試の要項を送付する。

④ 学校推薦型入試(指定校選抜)

2021年度入試から指定校Ⅱ期を設置、昨年度は10名を超えたが今年度は2名。(2021年度は緊急事態宣言中で高校側の準備が後ろ倒しになったためⅡ期が増加したと考えられる。)

- ・Ⅰ期11/12(土)、Ⅱ期11/26(土) 共に、コロナ禍を鑑み2021、2022年度選抜の入試選抜方法である「レポート型」で行う

年度別退学者状況	退学除籍数	うち指定校	割合	選考形態
2017年度生	23名	9名	39%	グループ面接
2018年度生	26名	3名	12%	グループ面接
2019年度生	17名	4名	23%	グループ面接
2020年度生	17名	6名	35%	レポート入試
2021年度生 2021年12月現在	9名	1名	11%	レポート入試

⑤ 社会人対象の入試

社会人特別選抜・総合型選抜での入試機会の増加・社会福祉施設連携入試新設
公共職業訓練専門人材育成コース以外の社会人の入学が低調である。

3年間に渡る実績、及び入学者や見学者の傾向から、公共職業訓練専門人材育成コースに該当しない社会人のニーズが考えられる。入学定員(200名)確保のためにも、委託生定員12名を除いて10名程度の社会人学生の入学を目指したい。

1) 社会人特別選抜入試機会の複数化 (1回→2回)

- ・受験者が勤務していること、休暇中の問い合わせが多くそこから準備する方への考慮とし

て、社会人特別選抜を **11/26(土)**と **2/25(土)**に行う (1/14(土)を変更)。

※ 8月中に「社会人向けのイベント」を行い、その時点から準備を進めていく

2) 総合型選抜入試のコース変更

・総合型選抜で、社会人が受験しやすいコースを設定する。現在、社会人が受験しやすいコースは、「授業参加コース」か「プレゼンテーションコース」である。授業参加コースは入試早期に設定されており、「プレゼンテーションコース」の受験者は現役高校生でも減少している。

・「授業参加コース」の「特別授業」を1.2月受験者に対応して実施する。

・「プレゼンテーションコース」を廃止し、「アサーションコース」を新設する。

発表型プレゼン入試ではなく自分が今まで経験したことなどを自己主張するレポートを作成し対話を行う入試とする。意欲的に学習する人を募集するコース。

※ 本学での学習に対する目的や意欲、今までの学習および経験を通じての「基礎的な知識」と、「身近な問題について自ら考え、その結果を表現できる」ことを評価する選考。

※ エントリー前に、オープンキャンパス等にて本学教職員と面談(キャリアカウンセリング的な要素で)していることを選抜条件にする

※ アサーションコースレポートの内容は(新しい調査書をベースとして)後日検討

(「アサーティブ入試」については追手門大学が商標登録済み)

アサーション:「自分の権利を守り他人の権利も尊重しながら自信をもって無理なく自分の思いを率直に表現するスキル」(清水隆司, 森田汐生, 竹沢昌子ほか: 日本語版 Rathus Assertiveness Schedule (RAS) の作成と信頼性・妥当性の検討. 産業医科大学雑誌, 25 (1): 35-42 (2003))

アサーションの発祥は1960年代のアメリカで、人種差別撤廃運動や、婦人解放運動の中で生まれて浸透した。1970年代になって、心理学者アルベルティとエモンズが著した“Your Perfect Right”で「自分自身でいる権利」「自分自身の存在を表現する権利」「自分自身でいること、自分自身の存在を表現することに対して、無力感や罪悪感を感じないでいる権利」の3つを「アサーション権」と名づけた。1980年代に日本に伝わり、今では学校教育やビジネス研修まで、幅広く応用。(菅沼憲治(2017)『増補改訂 セルフ・アサーション・トレーニング』 東京図書)

◆アサーションコースは社会人経験があれば、「職業訓練の受給の対象にもなり、本学は選定されているため、神奈川県東部総合職業技術校二俣川支所が合格を決定している委託生制度とは、違った形の学生の受け入れとなる、学生の多様化に繋がると思われる。

◆社会人入試の広報を入学案内、HP等で強く打ち出す。

具体的には、**教育職業訓練制度の周知**とともに、社会人入試があることを広報する。**教育職業訓練制度の認定校**であるが、過去に**1名も適用者がいない**。これは、広報不足であった。別紙のとおり、卒業時には、学納金総額の70%が戻ることを告知する。

3) 社会福祉施設連携入試 [2022年度調査して、2023年度実行へ]

地域連携から見えてくる課題として団体、自治体と協議しつつ実施を検討

児童福祉施設(保育士)及び社会福祉施設で就労している無資格の職員の資格取得に向けて

の支援制度の設立。本学の歴史、建学精神とも関連する現任教育としての役割も果たす。

- ・2年間を原則とする。
- ・入学金 290,000 円の減免
- ・受験条件 年齢は問わない。高等学校及び同等の学力を要する者。
- ・試験科目 施設長の推薦書、作文、面接
- ・入試時期

※ 就労しながら 2 年間で資格取得できる時間割を組めるかどうかが課題。履修登録時に自分で時間割から選んで登録することを許せば実現可能か検討。(就労先との連携により、例えば水曜日と金曜日を開けたり、午前中や午後のみ時間割を組むなど)

※ 団体や法人からも資格取得に対して個人に支援出来ないか打診したいところ。

※ 併せて通信制課程も検討する。

⑥一般入試

2022 年度高等学校学習指導要領改訂に伴い、本年度に引き続き一般入試における記述式「総合記述式問題」(社会、数学等のグラフや統計を含んだ総合的に考える問題)の導入が必要。

タイプ 1 -⑭ 一般選抜における記述式問題の出題

ア 教科・科目(例えば、国語、数学、英語等)において記述式問題を出題

イ 特定の教科・科目に限定されずに「思考力・判断力・表現力」を評価する総合的な記述式問題を出題

⑦スカラシップ(特待生)制度の復活(規程の改正)

和泉短期大学では、スカラシップ(特待生)入試制度を行い2010年度～2013年度までの4年間に14名の合格者があった。学ぶ意欲のある高校生に対して成績優秀者及び経済的支援が目的であった。しかし、年度を経るごとに成績優秀者が減少し、経済的支援に変わっていったため、休止にした次第である。経済的支援に関しては、2020年度から修学支援新制度が出来たため、本学でも毎年度30名ほどの学生が利用しているため、経済的支援は対象にしない。認証評価の評価項目にあるように、成績優秀な人材を獲得し、学習意欲をさらに高め、保育・福祉専門職の公務員試験合格者増を図るために、2023年度入試からスカラシップ入試を復活させる。

- ・入試方法：総合型選抜Ⅰ期(9月①②)の受験者を対象。
- ・入試科目：総合型選抜選考の方法に則る。ただし、実施に当たり評価方法については高得点者の差異を厳密に採点できるように修正する [別紙：現時点での評価案]
- ・選考日：9/10 または 9/17
- ・選考内容：エントリーシート、レポート、対話、(出願許可後)調査書による総合評価
- ・減免額：300,000 円(実験実習料(100,000 円) + 維持費(220,000 円)が減額の根拠)
- ・募集人数：5名 (総額 1,500,000 円)

課題

※ 施設からの修学資金〔保育士〕を作りたい。 [2022年度調査して、2023年度実行へ]

(2)総合型選抜エントリー予約、Web 出願

(3)入試：総合型選抜Ⅰ期～Ⅴ期10回、学校推薦型選抜(指定校推薦2回、公募推薦、専門高校推薦、キリスト教推薦各1回)、社会人特別選抜2回、一般選抜)、特待生(スカラシップ)

制度選抜 1 回の公正かつ適正な実施

神奈川県専門人材育成コース 委託訓練生の募集

(4) 他大学の入試関係データ収集

(5) 他大学の入学者状況の把握

(6) その他の入試関係業務の遂行

児童福祉学科入試一覧

入試の種類		特徴・選考	定員
総合型選抜	①授業参加コース	特別授業受講後にレポート作成して臨む、論述を重視した選考 〔事前にエントリーシート+授業参加レポート→選考日に事前面談〕	90
	②保育・福祉コース	高校での保育や福祉の学び・体験を活かした選考 高校で保育福祉に関する科目を学んだ者、実習・インターンシップ・ボランティア等の保育福祉に関する活動を行った方 〔事前にエントリーシート+保育・福祉レポート→選考日に事前面談〕	
	③アサーションコース	今までの学びや経歴等の自己表現を重視した選考 〔事前にエントリーシート+アサーションレポート→選考日に事前面談〕	
	④卒業生・家族コース	本学の卒業生、在学生などの親族がいる方で本学への進学を特に強く希望する志願者を対象とした選考 〔事前にエントリーシート+卒業生・家族レポート→選考日に事前面談〕	
学校推薦型選抜	①指定校推薦	本学指定の高校からの推薦で行う入試 〔高等学校の調査書全体の評定平均値 3.0 以上、詳細は在学する高等学校にお問い合わせください。〕	85
	②キリスト教推薦	キリスト教学校に通う方、教会に通う方、キリスト者やキリスト教に理解を有する方（求道者）対象の入試 〔出願時に志望の動機+高校の調査書+学校長の推薦書→選考日に面接〕	5
	③公募推薦	在学・出身校を問わず、ひろく開かれた入試 〔出願時に高校の調査書+学校長の推薦書→選考日に文章表現（作文）+面接〕	8 高等学校の調査書全体の評定平均値 3.0 以上
	④専門高校推薦	総合学科、職業学科等での学びを活かした入試 〔出願時に専門高校学修調書+高校の調査書+学校長の推薦書→選考日に文章表現（作文）+面接〕	
社会人特別選抜	2023 年 4 月 1 日の時点で 24 歳以上の方 〔出願時に志望の動機+出身高校の調査書→選考日に面接〕	7	
一般選抜	〔出願時に高校の調査書→選考日に国語総合（古文・漢文を除く、記述式問題を含む）、英語、記述式総合問題+面接〕	5	

実習サポート委員会（実習サポートセンター長 矢野 由佳子）

1. 実習に関する業務

(1) 実習先施設の選定・連絡・調整

① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整

② 実習指導連絡会の実施（保育実習・教育実習／年 2 回）

③ 「実習・実習指導 実施要項ー実習指導のミニマムダイヤモンド」作成と実習先への送付

(2) 実習実施に関わる業務

① 保育実習 I（保育所・施設）実習先確保と 1 月期・2 月期調整

② 上記①の実施期間の一本化への努力（1 月期：保育所、2 月期：施設）

- ③登録課題（希望実習先レポート）の受付と配属
- ④学生の諸手続の支援（希望実習先レポート、実習生個人票、各種検査結果の扱い、実習の記録、実習定期など）
- ⑤実習指導担当教員への学生の事前事後学習状況の把握・実習中止に関する手続きなどの支援（各種フォーマットの作成、配布）
- ⑥腸内細菌検査・予防接種抗体検査などに関する伝達・調整（実習先・学生・教員）
- ⑦健康管理センターとの連携（専門職としての健康などに関する指導、健康状況に関する相談・連携、検査結果の理解など）
- ⑧巡回指導担当教員の巡回先希望調査、配属調整、発表
- ⑨巡回指導にかかわる手土産・謝礼・交通費などの手続き
- ⑩実習に関する問い合わせの受付・伝達・調整（実習先・学生・保証人・教員）
- ⑪学生の実習実施状況に関する情報、実習巡回指導記録の管理
- ⑫実習先パンフレットなど関連資料の収集と学生への提供
- (3) 学生の個別的支援を要する事例について
 - ①実習指導授業担当教員との連携・協議など
 - ②障がいのある学生等修学支援委員会との連携・協議など（実習に関する支援）

2. 実習指導授業に関する業務

- (1) 授業「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案・支援
 - ①授業実施計画の立案と実習授業・実習指導計画一覧の作成、配布
 - ②実習指導授業の企画・運営（各種：全体、1・2年生合同、実習先別、施設種別など）
 - ③実習の事前・事後指導に活用する教材の編纂・印刷・配布
 - ④実習事前学習としての複数面談の企画・資料作成・実施
 - ⑤「実習指導授業」担当教員の支援（情報提供、資料作成、予定表・フォーマット作成など）
- (2) 「実習指導授業」の内容・方法の研究・改訂
 - ①実習授業・実習指導計画の立案。授業「キャリアデザイン」・学事との日程調整。
 - ②「実習ルールブック」作成、配布
 - ③実習の記録（日誌）の作成、配布
 - ④実習評価票、出勤票の作成、配布
 - ⑤改訂版「実習ステップブック」の活用（発行日までの教材準備）
 - ⑥SA（スチューデント・アシスタント）への支援、指導
- (3) 他授業・委員会と関連した業務
 - ①「ふれあい体験・ボランティア活動」と連携し、実習指導授業内で保育を学ぶ学生のマナー・モラルについての授業を実施
 - ②学生の実習支援に関して健康管理センター（健康管理センター委員会）・障がいのある学生等修学支援委員会との連携

3. 2022年度の重点課題

- (1) 上記1. 2. について、コロナ禍での業務となった2021年度の実績や経験を基にして、2022年度も状況に応じつつ着実にやっていく。

- (2) 実習指導連絡会の充実のため、教務委員会、学生委員会と連携する。また会場変更に伴う実施方法の確認を綿密に行う。
- (3) 引き続き、個別的支援を要する学生への対応について、健康管理センター・各部署・授業担当教員との連携・協議を図る。(新型コロナウイルス緊急対策特別委員会、障がいのある学生等修学支援申請書による円滑な連携・支援方法、学生委員会・授業担当教員ほかとの具体的な連携方法の構築)
- (4) 学びのマネージメント WG との連携による実習指導内容の精査・充実。
ポートフォリオ・GoogleClassroom を活用した学生への連絡について検討・充実。特に 2021 年度から実施した事前学習教材「生活技術に関する資料」の検証・活用
- (5) 2022 年度実習サポートセンター体制での職務分掌・作業や連絡時期と方法の検討、2021 年度の協力体制・支援の質の維持を実現する。更に迅速・丁寧・正確・充実した学生・指導担当教員の支援の向上を目指す。
- (6) 実習管理システムの改善を継続し、情報提供の質の向上を図る。
- (7) 引き続き、実習先・学生・授業担当教員・関連部署との確実な連絡・調整・協議を可能にする支援・作業方法の周知を目指す(書類・各種フローチャート・メール・電話など)
- (8) 引き続き、実習ごとに定められた実習(学習)の内容・目標、本学の実習実施・単位認定のルールなど、基礎的・基本的な実習指導内容を確実に修められる、全クラス共通のカリキュラムの実践を目指し、テキスト「実習ステップブック」・「実習ルールブック」・「実習の記録」を活用した授業実践支援方法の研究・改善・充実に努める。
- (9) 学生の事前・実習中・事後の学習の充実・向上に関わる「実習の記録」(日誌)の作成や、実習目標の内容理解について、実習指導以外の授業科目との連携を図り、指導内容の向上を目指す。
- (10) 学習意欲・学習効果を高め、学習の目標を明確にイメージする授業内容を目指す。グループ・全体・1.2 年生共同・グループ合同・施設種別・実習先別授業など学習内容に最適な授業形態を工夫、また LC・CDC を活用した自己学習の連携・構成を図る。

地域連携推進センター委員会(委員長 鈴木 敏彦)

本委員会は、次の委員会、ワーキンググループを設置し活動を行う。

【図書委員会】(委員長 鈴木 敏彦)

1. COVID-19 感染予防対策の徹底
 - ① 館内換気の徹底
 - ② 館内入場者数の制限
 - ③ 入場時の手指消毒・マスク着用の徹底
 - ④ カウンターへのビニールカーテンの設置
 - ⑤ カウンター対応時等のソーシャルディスタンス確保の徹底
 - ⑥ 返却資料への対応
2. 研究紀要発行に関する検討
 - ① 査読付き論文を含む研究紀要第 43 号の発行
 - ② 研究紀要の電子化の検討

3. 特設展示の充実
 - ① 新着図書紹介
 - ② 各種特集図書の別置・企画展示
4. 蔵書の充実
 - ① 保育に関する専門書及び絵本の充実
 - ② 選書バイヤーツアーによる蔵書購入
 - ③ シラバスに基づいた蔵書の構築
 - ④ 電子書籍及びデータベースの導入に向けた検討
5. 図書館利用者サービスの向上
 - ① 書架案内表示の充実
 - ② AVルーム・共同研究室の充実
 - ③ 卒業生・入学予定者の利用の周知
 - ④ すまいる参加者・市民大学講座受講者等、地域住民が利用しやすい環境づくり
 - ⑤ 図書館利用者教育、図書館ツアーの実施
6. 図書館利用者のモラル向上
 - ① 人的環境整備（掲示・声かけ等の取り組み強化）
 - ② 図書未返却者への督促強化
 - ③ 資料の紛失等への対策強化
 - ④ 利用者の拡大に伴う防犯対策の充実
7. 図書館ワークスタディアルバイト学生の活用
8. 図書館サポーター活動の充実
 - ① 選書ツアー（4. ②）
 - ② POP製作・展示
 - ③ 学生からの意見・提案聴取
9. 図書館主宰イベントの実施
 - ① 折り紙コンテスト
 - ② クリスマスイベント（お楽しみ抽選会）
 - ③ その他（館内上映会開催等）
10. 図書館ホームページの充実、リンクの充実
11. ラーニングセンターwill との連携
12. 相模原市内大学図書館と相模原市立図書館との相互協力連絡会への参加
13. 全国図書館大会（群馬＝オンライン開催）への参加
14. 卒業生、特別利用者の利用者手続き

【地域連携推進委員会】（委員長 井狩 芳子）

地域と連携して行う活動の窓口となり、定例的に行っている以下の活動を中心に、随時地域貢献事業を検討、実施する。

I. 地域連携プログラムワーキンググループ（委員長 井狩 芳子）

1. 学生のボランティア活動の支援・情報提供

- ① ボランティア募集に関する情報提供と実施に関する支援
 - ・ボランティア活動の推奨、パンフレット・チラシ・ポスター等の掲示・配付
 - ・ボランティア活動届の配付・受付
- ② 相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度への応募促進
 - ・学生に対するボランティア活動の推奨と本制度の周知
 - ・相模原市への推薦業務
- ③ 学生サークル等のボランティア活動支援
- 2. オレンジリボン活動
 - ① オレンジリボン・キャンペーン（相模原市包括連携協定校事業関連）への協力と協働
 - ・オレンジリボン作成、街頭配布への学生参加促進
 - ・図書館内に子ども虐待防止啓発コーナーの設置
 - ・学内とユニコムプラザ内本学ブースにオレンジリボン配置他
 - ② オレンジリボン運動（（NPO 法人）児童虐待防止全国ネットワーク）への登録・報告
 - ・学内に子ども虐待防止の啓発ポスター等の掲示
 - ・マスク配布（学内とユニコムプラザ内本学ブースに配置他）
- 3. ユニコムプラザ関連事業への協力
 - ① まちづくりフェスタ参加
 - ② その他関連事業への協力
- 4. さがまちコンソーシアム関連
 - ① 「市民大学」開催
 - ② さがまちカレッジ開催
 - ③ さがまちインターンシップ、さがまち学生 Club 等学生参加の活動の紹介と参加促進
 - ④ 市民大学連絡会副議長職担当（輪番制）
- 5. 関連事項・ニュース等の把握・広報
 - ① 相模原市中央区光が丘地区まちづくり会議への参加と協力
 - ② 関連団体の会合出席と情報共有

II. 子育て支援プログラム（はっぴい・すまいいい）ワーキンググループ

（委員長 久保 小枝子）

- 1. 子育てひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4.8月を除く毎月1回、土曜日）
 - ① 子育て家族への支援

安心・安全な遊び場の提供と、季節に応じた活動、良質の文化・芸術に触れる体験の提供
 保育支援者によるサポート体制を整え、参加者からの相談に応じる。
 ワーキンググループ委員の他、専任教員の参加（年1回）
 - ② 学生に実践的な学びの場を提供する

乳幼児とのふれあい・保護者とのコミュニケーションの場の提供
 学生主体の企画を発表する場の提供
 事前準備から当日終了までの計画立案・環境整備に関わる機会の提供
 参加学生との交流・実践的研修の提供
 - ③ 入学前教育プログラムとして高校生参加の機会を設定する

④ 卒業生との連携

活動時のボランティア受け入れ

子育て世代の親子参加の促進

同窓会広報活動への協力

⑤ その他

参加保護者への聞き取り、学生への調査を実施し、地域貢献活動のあり方・学生の現状と要望を探る

2. CDC の整備及び子育てひろば「すまいいい」（施設開放：毎週木曜日の実施）との連携

① 地域親子に CDC を遊び場、子育て支援の場として開放する

保育環境として相応しい維持整備を継続する

② 学生の保育就業力を支える実践の場としての環境整備

* COVID-19 感染状況により、感染拡大防止の観点から 2020・2021 年度同様に地域への開放を行わない可能性があり、その場合は、本学ウェブサイトより中止を知らせる。尚、開催にあたり、毎月本学ウェブサイトより事前予約制とし、3 密を避けるよう配慮する。

* 「はっぴい」「すまいいい」活動が中止された場合には、登録ボランティア学生を対象に、子育て支援における教材研究（年 2 回）を行う。

児童福祉研究室（室長 矢野 由佳子）

児童福祉研究室は、法人創立 60 周年を機に、和泉短期大学の建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を具現化するため 2017 年 11 月に設立された。その目的は本学教員の専門性および教育研究活動の成果を発信し、地域の保育・福祉に貢献することにある。この目的を達成するために、児童福祉研究室が行う事業として次の 5 項目が和泉短期大学児童福祉研究室規程に定められている。

- (1) 保育・福祉に関する研究および研修会・講演会の開催等
- (2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行
- (3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援
- (4) 定年退職者の最終講義録の刊行物掲載
- (5) その他、児童福祉研究室の目的の達成に必要な活動

まずは、(2) 本学の教育研究活動に基づく地域保育・福祉に寄与する刊行物の発行に相当する事業を展開するために、2018 年度より児童福祉研究「いっしょに子育て」を年 1 回発刊することを定めた。そこで、2022 年度においても、引き続き「いっしょに子育て」第 5 号を発行して、子育てに関する親しみやすい内容を提供すると同時に、地域住民と和泉短期大学の結びつきの強化を図りたいと考えている。

2022 年発行の児童福祉研究「いっしょに子育て」第 5 号の大枠は以下を計画している。

- ① 子どもの育ちに関する専門的知見からの提言
- ② 保育・福祉に関する教育研究活動に基づいた提言

- ③ 海外の保育・子育て事情に関するレポート（インターナショナルフィールドワークが実施された場合）
- ④ 子育てに役立つ情報提供等

また、2021年度は地域の子育てへの更なる貢献を目指して、(3) 地域住民を対象とした保育・福祉に関する相談支援 に関わる活動について検討を行った。これは和泉短期大学第2次中期計画に向けた取り組みのひとつである「地域連携活動の強化」において重要な位置づけにある。しかし、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から具体的な実施には至らなかったため、2022年度においては、地域連携推進委員会および「はっぴい・すまいい WG」と慎重に協議を重ね、状況に配慮しながら、安全な形での協同開催に向けて検討を行う予定である。

7. 広報活動

(1) 製作・発行物

・入学案内書一式	2022年	3月上旬発行予定
・全教員紹介	2022年	4月上旬発行予定
・オープンキャンパス告知ポスター	2022年	4月上旬配布予定
・保護者向け冊子	2022年	4月中旬配布予定
・首都圏高等学校送付入学案内書パック	2022年	4月下旬発送予定
・IZUMI NEWS 53号	2022年	5月下旬発行予定
" 54号	2022年	8月上旬発行予定
" 55号	2022年	12月上旬発行予定
" 56号	2023年	3月中旬発行予定
・受験生向けダイレクトメール ①(夏のオープンキャンパス)	2022年	7月上旬発送予定
・ " ②(いずみ祭)	2022年	9月下旬発送予定
・ " ③(クリスマスカード)	2022年	12月上旬発送予定
・ " ④(3月オープンキャンパス)	2023年	2月上旬発送予定
・卒業生・近隣教会宛に入試情報書類送付 (約11,000通)	2022年	6月中旬発送予定

(2) 主催型広報活動

- ・高等学校教員対象進学説明会（5月2回、6月1回）
- ・高大接続授業研究プログラム（6月1回、8月1回）
- ・神奈川県家庭部会開催（7月）
- ・和泉授業体験会（プレカレッジ）（2月高校1・2年生対象）
- ・オレンジリボンキャンペーン（相模原市と共催）（11月）
- ・LINE個別相談（1年間随時）
- ・WEBオープンキャンパス（都度）
- ・ホームページ及びSNS（ツイッター、LINE、インスタグラム、フェイスブック）情報発信
- ・オープンキャンパス

4/30(土)	10:00~12:30 (案)
5/14(土)	10:00~12:30 (案)
5/20(金) ナイトオープンキャンパス	17:30~19:30
5/29(日)	10:00~12:30 (案)
6/3(金) ナイトオープンキャンパス	17:30~19:30
6/18(土)	10:00~12:30 (案)
7/8(金) ナイトオープンキャンパス	17:30~19:30
7/9(土)	10:00~12:30 (案)
7/24(日)	10:00~12:30 (案) 「特別授業1」 10:00~11:00
8/6(土)	10:00~12:30 (案)
8/21(日) ランチ体験	10:00~14:00 「特別授業2」 10:00~11:00

8/27(土)	10:00~12:30 (案)
9/14(水) ナイトオープンキャンパス	17:30~19:30 「特別授業3」 17:30~18:30
10/5(水) ナイトオープンキャンパス	17:30~19:30 「特別授業4」 17:30~18:30
12/17(土)	10:00~12:30 (案) 「特別授業6」 10:00~11:00
2/11(土)	10:00~12:30 (案)
3/4(土)	10:00~12:30 (案)
3/25(土)	10:00~12:30 (案)

・ キャンパス見学会 (実施時間検討中)

6/29(水)		
8/31(水)		
9/17(土)		
10/29(土)	「特別授業5」 10:00~11:00 (11・12月分)	オータムフェスタ・ 保証人会
1/14(土)	「特別授業7」 10:00~11:00 (2月分)	

・ 高校教員進学説明会

5/10(火)
5/11(水)
6/15(水)

・ 和泉授業体験会 (プレカレッジ)

2/25(土)

(3) 参加型広報活動

- ・ 相模原市立市民・大学交流センター内「大学情報コーナー」(通年)
- ・ 高等学校内ガイダンス・オンラインガイダンス・模擬授業(随時)
- ・ かながわ短大フェア(神奈川県私立短期大学協会)(4月)
- ・ 進学相談会(会場形式)(随時)
- ・ 「大学で学ぼう～生涯学習フェア～」(かながわ大学生涯学習推進協議会)(7月・9月)

(4) 公開講座

- ・ 市民大学(相模原市・座間市と共催)前期・後期2講座
- ・ さがまちカレッジ「中学生対象講座」(12月)

和泉短期大学

(1) インターネット関連

(2022年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
(株)ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)リクルートマーケティングパートナーズ	スタディサプリ進路/基本参画、学科詳細レポート (インターネット商品)	1年間
キッズコーポレーション(株)	進学ナビ (インターネット商品)	1年間
(株)昭栄広報	ポータルサイト (高校生の気持ち) ライトプラン	1年間
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK (インターネット含む) 66 学校見学ノート	1年間
(株)マイナビ	進路のミカタ (インターネット商品)	1年間
(株)進研アド	マナビジョン短大 DPS リターゲティング広告	6月
	マナビジョン短大パッケージ (インターネット商品)	1年間
ライン(株)	LINE	1年間
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4月
	進路テキスト進学編 オフオンキャンパス日程一覧	
(株)日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	4月

(2) 雑誌掲出

(2022年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
キッズコーポレーション(株)	進学の森 大学・短大カタログ	4月
(株)さんぽう	短期大学まるわかり事典 (東日本版)	4月
(株)進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK 学校見学ノート	4月
(株)進路企画	大学・短大ガイドブック	4月
(株)教育通信社	進路テキスト進学編	4月
	進路テキスト進学編 オフオンキャンパス日程一覧	
(株)進学教育研究社	「ガマダス」説明会配布用大学ガイド	4月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	4月
神奈川県高等学校教科研究会	家庭部会会報	5月
(株)タウンニュース社	タウンニュース 暑中お見舞い号・名刺広告 Web 掲載	7月
	〃 元旦号・名刺広告	1月
神奈川案内広告(株)	神奈川新聞 迎春名刺広告	1月
(株) ショッパー社	新年名刺広告	1月
(一社) キリスト教保育連盟	月刊「キリスト教保育」	10月

(3) 交通広告等掲載

(2022年度)

広告代理店名	掲載紙等	時期
神奈川中央交通(株)	バス停正式名称「和泉短大前」保守管理	1年間

2022年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

金額

(教員関係経費)

11,535

研究費	児童福祉学科	単価	×	教員数	金額
○ 教 授		250	×	6	1,500
○ 特 任 教 授		250	×	2	500
○ 准 教 授		240	×	7	1,680
○ 専 任 講 師		230	×	1	230
○ 助 教		220	×	2	440
○ 助 手		210	×	1	210
○ 昇 任 予 定 者		10	×	3	30
				19	4,590
					計 4,590
	専 攻 科	単価			
○ 准 教 授		240	×	1	240
○ 特 任 教 授		250	×	1	250
○ 特 任 助 教		220	×	1	220
				3	710
					計 710
				22名	合計 (5,300)

学長裁量費

○ 共同研究費	1,300
○ 大学教育改革プログラム	
	計 1,300

合計 6,600

教材費	○ 専任・非常勤教員	2,735
旅費交通費	○ 学会参加 1回 @50限度 1人 2回 22名	2,200

(施 設)

100,450

内 容	設置場所	金額
土地 ○ 土地(1,536㎡)<第2号基本金> スクールバス駐車場 ※ 2021年度から繰り延べ	2号館隣地	繰延 ① 100,000
建物 ○ 消防設備連動操作盤	1号館	取替更新 ③ 450
		計 (450)

(設 備)

2,027

内 容	設置場所	金額
教育研究用 機器備品 ○ プロジェクター	ICT教育の充実 212教室	② 403
管理用機器備品 ○ スクールバス 車内カメラ設置	4台 コロナ感染症対策	⑤ 608
		計 (403)
		計 (608)
図 書 ○ 児童福祉学科 996 専攻科 20		1,016
		計 (1,016)

2022年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規及び主な経費	内 容	数	場 所	金 額	
消 耗 品 費	○ 学修成果の可視化システム	ICT教育の充実	教育学習支援	新規 ② 3,300	
	○ プロジェクター設置ケーブル等	ICT教育の充実	212教室	取替更新 ② 475	
	○ 空調温度調整整備	3号館	材料費	取替更新 ④ 11	
	○ スクールバス車内カメラ設置時ケーブル	4台	コロナ感染症対策	新規 ⑤ 39	
	○ 非常食(5年保存)	3,000	グラウンド備蓄庫	取替更新 ⑩ 856	
	○ 和泉短期大学フラッグ	9枚	校舎周辺街灯ポール	取替更新 ⑩ 233	
	○ 給与、勤怠用パソコン	2	庶務ユニット	取替更新 ⑩ 214	
	計 (2,529)
	印 刷 費	○ 児童福祉研究室 第5号(刊行誌)	2,000		416
		○ カルテファイル	200		230
○ 学びのハンドブック		570		278	
○ 学生サポートブック		300		573	
○ 研究紀要		350		539	
○ 教職研究		250		163	
○ 卒業生アンケート(満足度・離職調査)		200,600		206	
○ 自己点検・評価報告書		250		124	
計 (13,057)	
光 熱 水 費		○ 電気			10,123
	○ 水道			1,336	
	○ プロパンガス			1,598	
計 (11,361)	
維 持 修 繕 費	○ 遠隔教育対応LAN敷設工事	3号館	ホール	新規 ② 1,653	
	○ 空調温度調整整備	3号館	調整費	取替更新 ④ 175	
	○ 照明器具(LED化)(第Ⅱ期)	1号館	8教室	取替更新 ⑥ 2,533	
	○ 照明器具(LED化)(第Ⅱ期)	1号館	廊下・階段	取替更新 ⑥ 408	
	○ 照明器具(LED化)(第Ⅱ期)	1号館	ピアノレッスン 30室	取替更新 ⑥ 594	
	○ 窓ガラス遮光フィルム	1号館	図書館入口左側	新規 ⑩ 149	
	○ 排煙窓修理、天井飾り枠塗装	3号館		新規 ⑩ 352	
	○ 証明書発行用パソコン、タッチパネル	2	事務局窓口	取替更新 ⑩ 186	
	○ 既存施設設備修繕費			2,800	
	○ 構内樹木剪定	校地・グラウンド		2,511	
	計 (58,619)
	支 払 報 酬 手 数 料	○ 学修成果の可視化システム導入費	年間管理料	教務部	新規 ② 1,100
		○ 空調温度調整整備	設置調整費	3号館	取替更新 ④ 398
○ スクールバス 車内カメラ設置		4台	コロナ感染症対策	新規 ⑤ 22	
○ 照明器具(LED化) 大教室		8教室 247台	1号館	取替更新 ⑥ 897	
○ 照明器具(LED化) 廊下、階段		47台	1号館	取替更新 ⑥ 289	
○ 照明器具(LED化) ピアノレッスン室		30室 60台	1号館	取替更新 ⑥ 239	
○ 電子稟議書年額利用料		年間管理料	庶務ユニット	新規 ⑧ 546	
○ 派遣職員費用				新規 ⑩ 3,079	
○ アセスメントテスト(基礎カリサーチ)		各学年2回	4回	1,996	
○ Zoom 法人契約アカウント使用料			387アカウント	432	
○ MS包括ライセンス			54	395	
○ 授業目的公衆送信保証金		著作権	420人	320	
○ スクールバス運行料			4台	34,385	
○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬				3,845	
○ 校医料、健康診断料				819	
○ 食堂委託管理費				2,515	
○ 管理人業務費 機械警備含む				6,217	
○ 業務用システム維持支援費			教学・広報	924	
○ 学生・教職員安否確認システム				201	
計 (58,619)	

2022年度 事業計画 予算

学校法人 和泉短期大学

(単位:千円)

新規等の主な経費	内 容	数	場 所	金 額	
賃借料	○ コロナ対策 ウイルス除去装置	26台	13室	第2期 ⑨ 973	
	○ コロナ対策 ウイルス除去装置	20台	9教室	2021年度 ⑨ 454	
	○ モバイルポケット Wi-Fi	34台	学生貸与	1,770	
	○ 教員用ノートパソコン	35台	研究室他	627	
	○ 複合機・印刷機	5台	1号館・2号館	531	
	○ ファイアーウォール		1号館設置	782	
	○ 職員用 パソコン デスクトップ	25台、サーバー2台	事務局	1,251	
	○ 防犯カメラシステム一式	19か所	学内外	685	
	○ 学生用パソコン ノート	50台	212教室	1,532	
	○ スクールバス リース(5年)	4台	大型3台、中型1台	19,451	
	○ 借植木	大鉢 8、中鉢 5	1号館	385	
	○ 公用車リース料	軽自動車	1台	360	
	○ スクールバス駐車場賃料(2号基本金対象)	2号館隣地	1,493㎡	2,640	
	計 (31,441)
	奨学費 (給付)	○ 高等教育の修学制度による奨学費	30名	入学金・授業料	1年生 ⑦ 26,100
○ 高等教育の修学制度による奨学費		27名	授業料	2年生 ⑦ 14,467	
○ 眞鍋記念奨学金		10名		650	
○ 児童福祉奨学金		6名	1年 3名、2年 3名	1,000	
○ 卒業生・在学生家族		12名		600	
○ 学修奨励奨学金		15名		1,370	
○ ボランティア活動奨励奨学金		1名		50	
○ 愛のいずみ基金奨学金		1名		500	
○ 専攻科 学業修学資金		1名		300	
計 (45,037)	
広報宣伝費	○ 入学案内書、媒体広告他			19,631	
	○ Web出願システム 年間保守料		クレジット機能付加	⑧ 530	
計 (20,161)	
清掃費	○ 日常清掃、定期清掃		全 館	14,483	
計 (14,483)	
雑費	○ 消防設備連動操作盤 処分費	1台	2号館	取替更新 ③ 12	
	○ 照明器具(LED化) 大教室	8教室 247台	1号館	取替更新 ⑥ 140	
	○ 照明器具(LED化) 廊下、階段	47台	1号館	取替更新 ⑥ 29	
	○ 照明器具(LED化) ピアノレッスン室	30室 60台	1号館	取替更新 ⑥ 34	
	○ 学生フェア、卒業パーティー			500	
計 (715)	
※ 主な事業計画費				計 161,948	
① 土地取得経費			2号館隣接地	① 100,000	
② 遠隔教育・ICT教育関連・学修成果の可視化システム他				② 6,931	
③ 消防設備連動操作盤			1号館管理人室	③ 462	
④ 空調機調整費	3号館			④ 584	
⑤ スクールバス 車内カメラ設置	4台		コロナ感染症対策	⑤ 669	
⑥ 大教室の照明器具のLED電球改修	1号館		38教室、廊下・階段	⑥ 5,163	
⑦ 奨学費(高等教育修学支援制度)他	57名		補助金対象	⑦ 40,567	
⑧ デジタル化への対応(稟議書電子化・Web出願システム)				⑧ 1,076	
⑨ 新型コロナウイルス感染症対策	ウイルス除菌装置		23教室、46台	⑨ 1,427	
⑩ その他の特別経費(非常備蓄品3,000食他)				⑩ 5,069	

資金収支計算書（2018年度～2022年度）

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

科 目		2018年度	2019年度	2020年度	予 算	予 算
					2021年度	2022年度
収 入 の 部	学生生徒等納付金収入	489,802	468,648	469,342	491,060	471,450
	手数料収入	7,120	6,787	7,141	7,158	7,000
	寄付金収入	1,870	2,296	2,740	1,000	2,000
	補助金収入	50,657	39,870	73,648	89,635	83,636
	資産売却収入	15,756	192,852	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	642	6,566	16,406	21,191	26,118
	受取利息・配当金収入	16,555	19,721	20,639	19,950	20,123
	雑収入	10,411	13,842	22,506	73,178	32,242
	借入金等収入	0	0	0	0	0
	前受金収入	168,970	142,910	165,330	145,700	135,920
	その他の収入	50,234	26,518	28,040	137,766	203,629
	資金収入調整勘定	△ 183,954	△ 182,565	△ 165,096	△ 239,213	△ 164,544
	前年度繰越支払資金	2,125,578	2,031,774	1,904,164	1,284,569	1,100,600
合 計	2,753,641	2,769,219	2,544,860	2,031,994	1,918,174	
支 出 の 部	人件費支出	392,180	392,760	397,535	464,054	398,400
	教育研究経費支出	103,222	101,682	152,953	168,117	156,234
	管理経費支出	114,549	105,484	113,185	109,440	111,613
	借入金等利息支出	0	0	0	0	0
	借入金等返済支出	0	0	0	0	0
	施設関係支出	20,463	10,414	20,280	103,121	100,450
	設備関係支出	4,481	1,454	3,044	1,016	2,027
	資産運用支出	69,237	250,071	571,880	151,267	91,573
	その他の支出	23,499	12,010	15,820	21,207	78,048
	予備費支出	0	0	0	30,000	30,000
	資金支出調整勘定	△ 5,764	△ 8,820	△ 14,406	△ 68,428	△ 25,940
	翌年度繰越支払資金	2,031,774	1,904,164	1,284,569	1,052,200	975,769
	合 計	2,753,641	2,769,219	2,544,860	2,031,994	1,918,174
資金収支差額		△ 93,804	△ 127,610	△ 619,595	△ 232,369	△ 124,831
予算学生数		404名	386名	380名	407名	403名
収用定員充足率 500名 / 2022年度 450名		80.8%	78.6%	80.4%	81.4%	89.6%
専門学校(専攻科)学生数		8名	4名	15名	21名	16名
前年度対比学生数		△92名	△22名	5名	33名	△9名

事業活動収支計算書（2018年度～2022年度）

学校法人和泉短期大学

(単位:千円)

科 目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
	金額	構成比率								
	教育活動収入の部									
学生生徒等納付金	489,802	86.0%	468,648	84.7%	469,342	77.0%	491,060	69.8%	471,450	73.4%
手数料	7,120	1.3%	6,787	1.2%	7,141	1.2%	7,158	1.0%	7,000	1.1%
寄付金	1,870	0.3%	2,376	0.4%	2,740	0.4%	1,000	0.1%	2,000	0.3%
経常費補助金	40,453	7.1%	35,270	6.4%	70,651	11.6%	89,635	12.7%	83,636	13.0%
付随事業収入	642	0.1%	6,566	1.2%	16,406	2.7%	21,191	3.0%	26,118	4.1%
雑収入	13,097	2.3%	13,834	2.5%	22,506	3.7%	73,178	10.4%	32,242	5.0%
教育活動収入計	552,984	97.1%	533,481	96.4%	588,786	96.6%	683,222	97.2%	622,446	96.9%
教育活動支出の部										
人件費	390,102	68.5%	390,039	70.5%	393,304	64.5%	457,886	65.1%	410,525	63.9%
教育研究経費支出	162,281	28.5%	163,636	29.6%	207,420	34.0%	218,795	31.1%	204,654	31.8%
(減価償却額)	59,061	8.8%	61,882	9.3%	54,460	7.6%	50,678	6.4%	48,420	6.6%
管理経費支出	121,618	21.4%	112,962	20.4%	119,982	19.7%	116,946	16.6%	119,076	18.5%
(減価償却額)	7,369	1.1%	7,375	1.1%	7,473	1.0%	7,506	0.9%	7,463	1.0%
教育活動支出計	674,001	118.3%	666,637	120.5%	720,706	118.3%	793,627	112.9%	734,255	114.3%
教育活動収支差額	△ 121,017	-21.9%	△ 133,156	-25.0%	△ 131,920	-22.4%	△ 110,405	-16.2%	△ 111,809	-18.0%
教育活動外収入の部										
資産運用収入	16,555	2.9%	19,721	3.6%	20,639	3.4%	19,950	2.8%	20,123	3.1%
教育活動外収入計	16,555		19,721		20,639		19,950		20,123	
教育活動外支出の部										
教育活動外支出計	0		0		0		0		0	
教育活動外収支差額	16,555		19,721		20,639		19,950		20,123	
経常収支差額	△ 104,462	-18.3%	△ 113,435	-20.5%	△ 111,281	-18.3%	△ 90,455	-12.9%	△ 91,686	-14.3%
特別収入の部										
資産売却差額	15,756		12,852		0		0		0	
その他の特別収入	10,636	1.8%	4,608	0.8%	2,997	0.5%	0	0.0%	0	0.0%
特別収入計	26,392		17,460		2,997		0		0	
資産処分差額	328		2,531		461					
その他の特別支出	495		8		0		0		0	
特別支出計	823		2,539		461		0		0	
特別収支差額	25,569		14,921		2,536		0		0	
【予備費】							30,000		30,000	
事業活動収入	595,931		570,662		612,422		703,172		642,569	
事業活動支出	674,824		669,176		721,167		823,627		764,255	
基本金組入前当年度収支差額 = 事業活動収支差額	△ 78,893	-13.2%	△ 98,514	-17.3%	△ 108,745	-17.8%	△ 120,455	-17.1%	△ 121,686	-18.9%
基本金組入額	△ 22,327		△ 4,723		△ 5,604		△ 3,536		△ 2,947	
当年度収支差額	△ 101,220		△ 103,237		△ 114,349		△ 123,991		△ 124,633	
前年度繰越収支差額	2,957,325		2,856,105		2,752,868		2,638,519		2,514,528	
基本金取崩額	0		0		0		0		0	
翌年度繰越収支差額	2,856,105		2,752,868		2,638,519		2,514,528		2,389,895	
事業活動収支差額比率	-13.2%		-17.3%		-17.8%		-17.1%		-18.9%	
教育活動収入 - (教育活動支出 - 減価償却費)	△ 54,587		△ 63,899		△ 69,987		△ 52,221		△ 55,926	

	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度	
基本金組入額	△ 22,327	3.7%	△ 4,723	0.8%	△ 5,604	0.9%	△ 3,536	0.5%	△ 2,947	0.5%
(第1号基本金組入額)	△ 20,452	3.4%	△ 2,591	0.5%	△ 3,935	0.6%	△ 101,836	14.5%	△ 101,374	15.8%
(第2号基本金組入額)							100,000	-14.2%	100,000	-15.6%
(第3号基本金組入額)	△ 1,875	0.3%	△ 2,132	0.4%	△ 1,669	0.3%	△ 1,700	0.2%	△ 1,573	0.2%
(第4号基本金組入額)	0		0		0		0		0	